

島根大学

保健管理センター一年報

[平成29年度]

島根大学保健管理センター

25年間、ほんとうにありがとうございました

荒川 長巳

平成5年（1993年）4月に島根大学保健管理センターに着任してから早25年。今年度末を持って退職することになりました。これまで、お世話になったみなさまに感謝しつつ、この25年を振り返ってみたいと思います。

25年前はバブルがはじけた後でしたが、まだのどかな時代で今の学生センターの2階から麻雀をしているパイの音が授業中に風にのってくるような日もありました。最初に、担当したのはエイズの予防教育でした。保健管理センターの新たな仕事になったばかりでした。エイズ教育は、血液凝固剤で感染した血友病患者さんや男性同性愛者が差別されないように配慮しながら、異性間の性行為でも感染するということを啓発しなければならずナイーブなものでした。感染症の予防に関しては、その他 SARS や新型インフルエンザなどに対応しました。タバコ対策としてメーリングリストを利用した断煙支援をしました。数人の方が今でも断煙しておられ、お役に立てたのではないかと考えております。また、カルト対策もしましたが、非常に貴重な経験をさせて頂いたと考えております。

独立行政法人化以降は、松江キャンパスの産業医としてメンタルヘルス対策をさせて頂きました。復職支援（職場復帰プログラムの作成、試し（リハビリ）出勤の実施）など、ある意味で時代の最先端の仕事だったと思います。一定のお役に立てたのではないかと考えております。

学生相談としては、カウンセリング（精神療法）というよりどちらかといえば危機対応を担当しておりました。最近では、未診断で発達障害の傾向を持つ学生さんの対応が主になっています。この25年間の事績をひとつあげるなら、「新入生の全員面接」ではないかと思えます。新入生の健康診断に合わせて、2名の医師で全員に短時間面接し入学後の適応に不安がある学生さんをその場でカウンセラーに繋ぐというものです。すべては直感で、科学的な証明はできませんが、最小のエネルギーで最大の効果を上げたのではないかと自負しております。ただ、体力的に非常に消耗するため年齢的にも限界を感じるようになりました。

おわりに

25年間の勤務に終止符を打とうとしている現在、ここまで良くやってこられたと思っています。多くの方々に、支えられてきたことに心より感謝しております。親しくして頂いていた香川大学の小柳先生がしみじみと「相談業務は55歳が限界です」とおっしゃったのがよく分かります。余生はゆっくりと楽しいことをしたいと考えております。

これまで、みなさん本当にありがとうございました。衷心より感謝申し上げます。

目 次

松江キャンパス

I : 事業・業務	1
II : 保健管理業務	2
1. 学生定期健康診断・事後措置	2
①学生定期健康診断	
②特別健康診断	
③特殊健康診断	
④臨時健康診断	
2. 保健管理センター利用状況	7
①学生・職員などの健康相談等	
②母性保健相談	
3. 精神保健相談・カウンセリング状況	9
①精神保健相談・カウンセリング	
②支援活動報告	
4. その他の活動	20
①学内外機関との連携	
②緊急支援	
III : 教職員の健康管理	20
IV : 広報・教育活動	21
1. 全学研修会の開催	
2. 教員・学生対象の研修会	
3. 保健管理センターのしおり発行	
4. 島根大学保健管理センター松江のホームページ	
5. e-ラーニングの実施	
6. カルト対策	

出雲キャンパス

I : 事業・業務	31
II : 保健管理業務	32
1. 学生定期健康診断及び事後措置	32
①医学部学生定期健康診断	
②大学院生定期健康診断	
2. 医学部学生の感染症対策	37
①4種感染症（麻疹、風疹、ムンプス、水痘・帯状ヘルペス）抗体検査、	

B型肝炎・C型肝炎抗体検査	
②B型肝炎ワクチン接種	
③インフルエンザワクチン接種	
3. 外国人研究留学生、外国人研究者健康診断	40
4. 保健管理センター利用状況	41
①月別・区分別利用延べ件数（表とグラフ、年次推移）	
②健康診断書の発行件数（再掲）	
③医療機関（専門医）紹介件数（再掲）	
5. こころの相談・カウンセリング利用延べ件数（再掲）	45
6. 出雲キャンパスにおける心理相談	50
III：教職員の健康管理	52
1. 教職員のセンター利用件数（再掲）	
2. 産業医業務	
IV：広報・啓発活動	53
1. 保健管理センターのしおり発行	
2. 島根大学保健管理センター出雲のホームページ	
3. 健康教育：テーピング講習会	

活動と体制

I：目標と計画	55
II：学術研究活動	57
1. 研究会主催	
2. 学会・研究会参加	
3. 学会・研究会発表	
4. 著書	
5. 学術論文	
6. 報告書	
7. 研究助成	
8. 他	
III：教育活動	61
IV：社会貢献・講演	61
V：保健管理体制	63
1. 組織	
2. 構成	
3. 島根大学教育・学生支援機構保健管理センター規則	
VI：沿革	66

松江キャンパス

I 事業・業務

月	事業・業務
4月	入学時定期健康診断（新入生） 入学式救護 【4～5月】定期健康診断（在学生・留学生） 【4～6月】定期健康診断事後指導・措置（新入生・在学生・留学生）
5月	特別健康診断（RI取扱者 学生・職員）
6月	中国五大学競技大会事前健康診断 【6～10月】学部との学生相談連携会議
7月	
8月	第35回島根学生相談研究会 第47回中国四国保健管理研究集会（高知大学 高知会館） 中国五大学競技大会事前健康診断
9月	第55回全国大学保健管理研究集会（琉球大学 沖縄コンベンションセンター） 医学部FD研修会
10月	中国五大学競技大会事前健康診断 「保健管理センター」パンフレット発行
11月	中国五大学競技大会事前健康診断 留学生健診 特別健康診断（RI取扱者 学生・職員） 推薦入学試験救護
12月	「学生対応のポイント」講演会
1月	大学入試センター試験救護
2月	個別学力試験（前期日程）救護 特殊健康診断
3月	全国大学保健管理協会中国四国地方部会幹事会 個別学力試験（後期日程）救護 第36回島根学生相談研究会 卒業式救護
内科健康相談 4～7月：2回／月， 10～2月：1回／月	
保健管理センターミーティング（松江・出雲） 6/7, 8/8, 3/5	

II 保健管理業務

1. 学生定期健康診断・事後措置

① 学生定期健康診断

健康診断項目

項目	学年等	学 部		大 学 院		留学生
		1 年	2 年以上	1 年	2 年以上	
計 測		○	○	○	○	○
血 圧		○	○	○	○	○
内 科		該当者のみ	○	○	○	○
胸部X線		○	該当者・ 希望者	○	該当者・ 希望者	○
尿 検 査		○	—	—	—	—
問 診		○	—	○	—	—

実施時期は4～5月で、1年生は入学式前後で0.5日で2回、1日を1回実施している。

2年生以上、大学院生、留学生は午後0.5日で12回行っている。

1年生は問診結果や既往歴、本人の希望等により、内科診察を実施する。

2年生以上・大学院生・留学生の尿検査は経過観察該当者、医師の指示、希望者に対して実施する

定期健康診断受診率

学部

		1 年 生		2 年 生		3 年 生		4 年 生		5 年 生 以 上	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
法 文	対象者数	91	106	110	130	113	126	108	133	43	18
	受診者数	91	104	64	67	34	63	42	80	5	5
	受診率(%)	100.0	98.1	58.2	51.5	30.1	50.0	38.9	60.2	11.6	27.8
教 育	対象者数	67	88	79	93	93	79	91	81	26	7
	受診者数	67	88	79	91	88	78	84	76	10	4
	受診率(%)	100.0	100.0	100.0	97.8	94.6	98.7	92.3	93.8	38.5	57.1
人 間 科 学	対象者数	23	59								
	受診者数	23	59								
	受診率(%)	100.0	100.0								
総 合 理 工	対象者数	340	71	339	58	357	62	339	68	148	11
	受診者数	335	71	85	19	79	32	127	40	55	7
	受診率(%)	98.5	100.0	25.1	32.8	22.1	51.6	37.5	58.8	37.2	63.6
生 物 資 源	対象者数	126	80	132	73	144	81	129	93	24	7
	受診者数	124	80	51	32	36	28	63	62	3	1
	受診率(%)	98.4	100.0	38.6	43.8	25.0	34.6	48.8	66.7	12.5	14.3
計	対象者数	647	404	660	354	707	348	667	375	241	44
	受診者数	640	402	279	209	237	201	316	258	73	17
	受診率(%)	98.9	99.5	42.3	59.0	33.5	37.8	47.4	68.8	30.3	38.6

大学院

		1年生		2年生		3年生		4年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女
人文社会科学	対象者数	5	10	7	6	2	3		
	受診者数	5	9	3	5	0	0		
	受診率(%)	100.0	90.0	42.9	83.3	0.0	0.0		
法務研究科	対象者数	-	-	1	-	-	-		
	受診者数	-	-	0	-	-	-		
	受診率(%)	-	-	0.0	-	-	-		
教育学	対象者数	12	14	20	14	2	1		
	受診者数	12	12	10	9	0	0		
	受診率(%)	100.0	85.7	50.0	64.3	0.0	0.0		
総合理工学前期	対象者数	120	17	104	11	9	1		
	受診者数	92	10	65	9	2	0		
	受診率(%)	76.7	58.8	65.2	81.8	22.2	0.0		
総合理工学後期	対象者数	11	5	13	1	14	3	6	2
	受診者数	6	3	2	0	6	1	1	0
	受診率(%)	54.5	60.0	15.4	0.0	42.9	33.3	16.7	0.0
生物資源科学	対象者数	32	17	43	16	7	5		
	受診者数	26	13	23	11	0	2		
	受診率(%)	81.3	76.5	53.5	68.8	0.0	40		
計	対象者数	180	63	188	48	25	13	6	2
	受診者数	141	47	103	34	16	3	1	0
	受診率(%)	78.3	74.6	54.8	70.8	61.0	23.1	16.7	0.0

連合大学院農学研究科：男子 15 名 女子 18 名、科目等履修生等：男子 20 名 女子 16 名
 秋季入学者健康診断（平成 29 年 11 月 8 日実施）男子 20 名 女子 25

事後措置

○血圧

健診当日、自動血圧計で2回測定し、どちらも高値（収縮期血圧 140 mmHg and/or 拡張期血圧 90 mmHg）を示した学生は、後日二次検診を行っている。二次健診でも血圧高値であった対象者を高血圧者とした。

二次検診の対象となった血圧高値者

	男子	女子
対象者数	137	12
受検者数	123	9
高血圧数(%対受検者)	4(3.3)	0(0.0)

○尿検査

学部新生全員を対象に尿検査を施行している。有所見(陽性)者には、精密検査受診を勧奨し、医療機関を紹介している。

	受検者	要精密検査者			精密検査受診者
		蛋白	糖	潜血	
男	595	3	0	4	2
女	348	3	0	9	4

○結核検診（胸部 X 線撮影）

第一学年（入学年度）のみを対象として健康診断時の胸部 X 線検査を実施している。ただし、結核問診の有所見者および医師が必要と判断した場合は対象に加えた。胸部 X 線有所見者には専門医療機関を紹介している。

受検者数	2255	
要精密検査者数	6	
精密検査受験者数	6	
精密検査結果	異常なし	3
	要観察	2
	要治療	1

② 特別健康診断(放射性同位元素 RI 等取扱者)

島根大学職員安全衛生管理規程第 23 条及び、島根大学総合科学研究支援センター遺伝子機能解析分野 RI 実験施設放射線障害予防規則第 18 条の規定により、放射線業務従事者の健診を年 2 回実施している。

1. 対象者：放射線・RI 取扱学生、教職員
2. 検査項目：①全身の自覚症状に関する問診
②皮膚・眼球・爪の性状などの視診
③一般血液検査（松江赤十字病院）

		5 月	11 月
新規登録者	学生	27	24
	職員	0	2
既登録者	学生	62	0
	職員	40	38
計		129	64
要精密検査者		0	1

③ 特殊健康診断(学生)

健康障害の予防及び健康障害の早期発見を目的として教員に追加して学生に対しても特殊健康診断を実施している。

学 部	実施月	対象者	受診者	受診率(%)
教育学部	9 月	-	-	-
	2 月	-	-	-
総合理工学部	9 月	76	51	67.1
	2 月	76	41	53.9
生物資源科学部	9 月	-	-	-
	2 月	1	0	0
合計		153	92	60.1

検査項目別受診者数(人)

学 部	実施月	有機溶剤	特定化学物質	合計
教育学部	9 月	-	-	-
	2 月	-	-	-
総合理工学部	9 月	44	40	84
	2 月	41	30	71
生物資源科学部	9 月	-	-	-
	2 月	0	-	0
合計		85	70	155

④ 臨時健康診断（体育系の部活・サークル健康診断）

大学を代表して対外試合に出場するスポーツ選手や、強化合宿、体育実技、各クラブ活動の合宿などに対応して臨時健康診断を実施している。

検査項目： 内科診察、血圧測定、身長・体重測定

	受診者数
中国五大学学生競技夏季大会	196
中国五大学学生競技冬季大会	92
その他の大会・合宿	40
計	328

2. 保健管理センター利用状況

① 学生・職員の健康相談等

保健管理センター利用内訳（延数）

		学生	留学生	職員	その他	合計
健康診断（大会参加のため）		355	1	2	0	358
測定・検査	身体測定	377	6	0	0	383
	視力測定	181	4	1	0	186
	血圧測定	590	9	5	6	610
	体温測定	203	4	18	10	235
	尿検査	68	1	0	0	69
	心理検査	7	0	1	0	8
診察・健康相談	内科系(医師による)	96	4	66	15	181
	外科系(医師による)	18	4	15	3	40
	母性相談	216	1	1	1	219
	栄養相談	42	1	0	0	43
	保健・生活指導他	963	31	48	11	1053
	その他	103	6	10	1	120
精神保健・カウンセリング [※]		2114	11	795	221	3141
処置	投薬	416	3	181	2	602
	外科系	107	3	13	3	126
	休養室利用	135	0	14	6	155
	リラクセス室・事務室休憩	14	0	13	0	27
	マッサージ機使用	2	0	11	0	13
	健診事後措置	605	14	1	0	620
	その他	103	10	5	2	120
専門医紹介	内科系	189	9	24	2	224
	外科系	218	7	12	1	238
	精神科	56	1	25	2	84
	婦人科	29	0	0	0	29
	その他	58	2	42	13	115
健康診断証明書等発行		42	4	0	1	47
合計		7,307	136	1,303	300	9,046

延べ件数学生は学部・大学院・研究生等で、その他は卒業生・家族等である。

定期健康診断受検者数は含まない。

「精神保健・カウンセリング」は医師診察、カウンセリングなどの合算である。

② 母性保健相談

○女性の健康相談

学生・職員の月経に関する悩み等に、婦人科医師や保健師が随時応じている。

女性の健康相談の内訳（延数）

月経困難症	28
月経周期の異常	37
過多月経	7
月経前症候群	11
妊娠に関して	1
乳腺及び月経移動に関して	5
計	89

相談に対する対応の内訳（延数）

医師診察	51
往診	1
鎮痛剤の投与	7
保健管理センターでの休養	9
セルフケア・日常生活等保健指導	6
月経周期・基礎体温測定指導	26
医療機関紹介	31

○学生定期健康診断を利用した母性保健相談

定期健康診断の際の健康調査票で、月経に関する不定愁訴の有所見者を相談対象者とし、要経過観察者は婦人科医師診察と保健師による指導を行った。

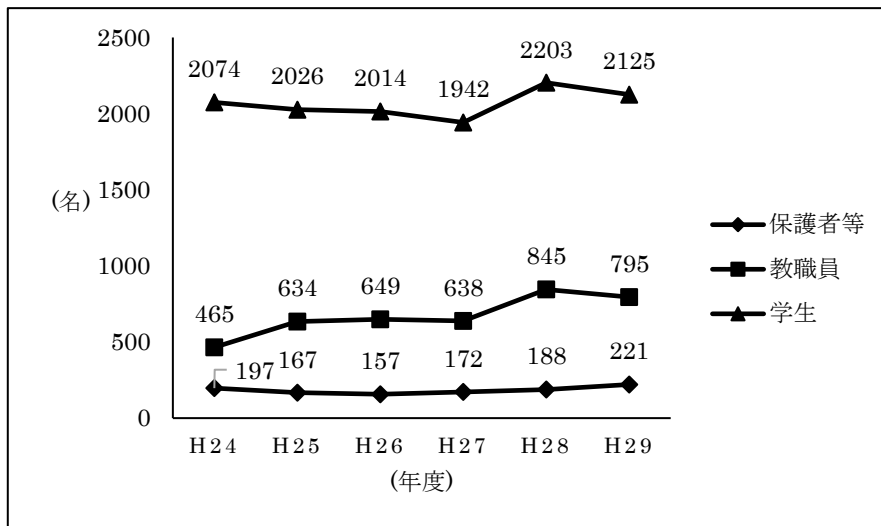
健診受診者数	相談対象者数	相談来所者数	要経過観察者数
1182	45	33	14

3. 精神保健相談・カウンセリング状況

① 精神保健相談・カウンセリング

精神保健・カウンセリング内訳(延件数)

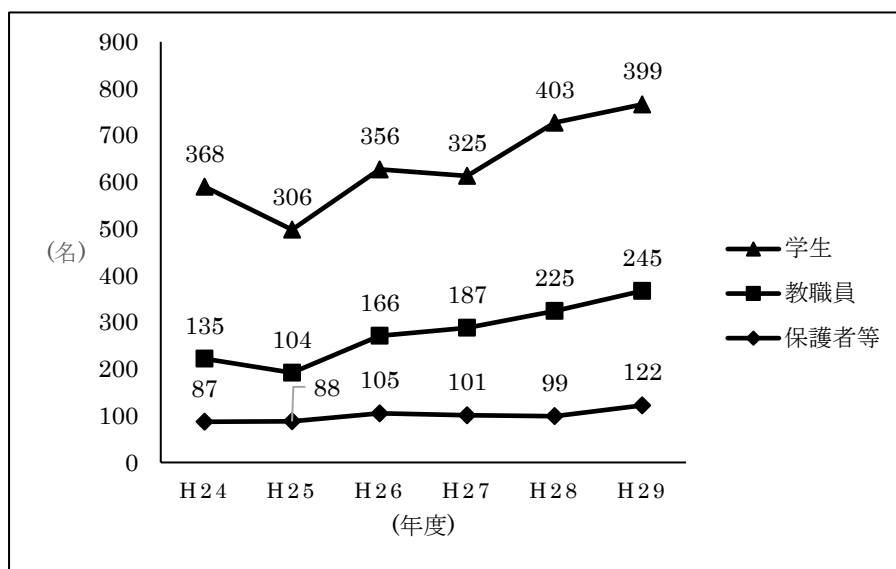
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部	法文	男	24	24	33	21	8	10	25	23	25	17	17	6	233
		女	43	39	28	27	14	14	34	34	23	24	19	15	314
	教育	男	5	7	7	9	6	4	5	6	7	5	5	0	66
		女	32	30	20	19	12	10	28	20	22	27	19	2	241
	医学部	男	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		女	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	総合理工	男	56	49	42	42	20	20	39	34	33	21	20	11	387
		女	19	11	12	10	7	8	10	10	12	9	13	8	129
	生物資源	男	26	6	10	19	1	18	28	26	17	16	16	6	189
		女	44	30	37	36	7	11	28	14	19	10	25	7	268
	人間科学	男	5	3	2	2	3	2	3	4	4	1	2	1	32
		女	8	9	0	4	2	3	1	1	1	4	1	0	34
	小計	男	116	89	94	96	38	54	100	93	86	60	60	24	910
		女	146	119	98	96	42	46	101	79	77	74	78	32	988
大学院	人文社会学研究科	男	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	3
		女	1	1	0	1	1	0	2	0	5	0	1	0	12
	法務研究科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育学研究科	男	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
		女	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	総合理工学研究科 (前期課程)	男	4	4	6	9	12	9	13	7	0	11	6	5	86
		女	4	5	5	3	2	0	0	0	7	0	0	0	26
	総合理工学研究科 (後期課程)	男	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
女		1	2	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	7	
生物資源科学 研究科	男	4	3	0	3	6	1	5	4	1	3	6	14	50	
	女	5	1	0	1	1	0	0	1	0	0	11	2	22	
連合大学院 農学研究科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	男	9	8	8	13	18	11	20	13	1	14	12	19	146	
	女	11	9	6	5	6	1	2	1	12	0	12	3	68	
留学生	男	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	4	
	女	0	0	0	2	0	0	1	0	3	1	0	0	7	
研究生等	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
職員	男	62	51	57	73	44	35	70	55	54	44	41	30	616	
	女	21	26	22	17	11	13	15	13	11	7	19	4	179	
家族	男	9	3	2	6	2	5	12	3	5	3	1	2	53	
	女	5	12	6	22	2	4	25	21	11	14	15	8	145	
その他	男	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	1	0	5	
	女	1	1	0	3	0	1	3	1	1	0	4	3	18	
合計	男	197	152	161	188	102	106	203	166	147	121	116	75	1,734	
	女	184	167	134	145	61	65	147	115	115	96	128	50	1,407	



29 年度別精神・カウンセリング延件数 推移 (学生・保護者・教職員)

精神保健相談・カウンセリング内訳（実人数）

	所属	男子	女子	合計
学部	法文学部	32	54	86
	教育学部	16	22	38
	医学部	1	1	2
	総合理工学部	75	57	132
	生物資源科学部	39	44	83
	計	163	178	341
大学院	人文社会学研究科	0	3	3
	法務研究科	0	0	0
	教育学研究科	1	0	1
	医科学研究科（修士）	0	0	0
	医科学研究科（博士）	0	0	0
	総合理工学研究科（前期）	18	7	25
	総合理工学研究科（後期）	1	2	3
	生物資源科学研究科	9	8	17
	連合農学研究科	0	0	0
	計	29	20	49
	研究生等	0	0	0
	留学生	5	4	9
	職員	183	62	245
	家族	26	75	101
	その他	5	15	20
	合計	411	354	765



29年度別精神・カウンセリング実人数 推移（学生・保護者・教職員）

精神保健相談・カウンセリング内容別内訳（延件数）

		修学 進路	対人 関係	心身 健康	学生 生活	家族 家庭	ハラスメント	コンサル テーション	その 他	合 計	
学 部	法文	男	44	4	92	62	0	0	2	29	233
		女	16	13	136	133	6	0	0	10	314
	教育	男	25	0	26	11	0	0	2	2	66
		女	10	24	148	38	0	4	0	17	241
	医学部	男	0	0	3	0	0	0	0	0	3
		女	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	総合理工	男	88	2	121	100	1	1	7	67	387
		女	14	5	68	30	1	0	0	11	129
	生物資源	男	37	5	48	60	0	7	0	32	189
		女	31	11	66	126	5	10	0	19	268
人間科学	男	5	0	6	12	2	0	0	7	32	
	女	0	0	12	13	0	0	0	9	34	
小 計	男	199	11	296	245	3	8	11	137	910	
	女	71	53	432	340	12	14	0	66	988	
大 学 院	人文社会学研究科	男	0	0	1	0	1	0	0	1	3
		女	0	0	6	4	1	0	0	1	12
	法務研究科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育学研究科	男	0	2	3	0	0	0	0	0	5
		女	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	総合理工学研究科(前期課程)	男	10	7	44	21	0	0	0	4	86
		女	8	1	10	4	0	1	0	2	26
	総合理工学研究科(後期課程)	男	0	0	0	0	0	2	0	0	2
		女	6	1	0	0	0	0	0	0	7
	生物資源科学研究科	男	20	0	18	10	0	0	0	2	50
		女	3	1	13	3	0	1	0	1	22
	連合大学院 農学研究科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計	男	30	9	66	31	1	2	0	7	146	
	女	17	3	29	12	1	2	0	4	68	
留学生	男	1	0	1	1	0	0	1	0	4	
	女	0	0	4	1	0	2	0	0	7	
研究生等	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	2	0	0	2	
職員	男	3	4	152	2	3	28	239	185	616	
	女	0	5	65	0	1	9	42	57	179	
家族	男	1	0	0	2	1	0	26	23	53	
	女	8	0	7	1	2	0	60	67	145	
その他	男	1	0	2	0	0	0	1	1	5	
	女	1	0	1	0	0	0	1	15	18	
合 計	男	235	24	517	281	8	38	278	353	1734	
	女	97	61	538	354	16	29	103	209	1407	

② 支援活動報告

○29 年度入学時健康診断におけるメンタルヘルス不調学生へのフォローアップ

1. 健診時のカウンセラー面接について

保健管理センターで実施される入学時健康診断において、新入生および 3 年次編入生は医師による全員面接を実施している。事前調査で心身症状を問う項目に当てはまるとの回答が多い、あるいは面接で心身の症状や悩みの訴えがあるなどのため、医師によりメンタルヘルス不調と判断された学生には、その場でカウンセラー面接を行っている。健診時のカウンセラー面接は 5 分程度と短時間であるが、メンタルヘルス悪化リスクの高い学生への不適応予防、ニーズのある学生の早期発見・早期対処、後にニーズが生じた際に相談するための心理教育という 3 点を目的としている。

2. メンタルヘルス不調学生数とカウンセラーによるフォローアップ状況

医師によりメンタルヘルス不調と判断された新入生（以下、メンタルヘルス不調学生）の人数は、例年 100 名前後で推移している。平成 29 年度は、126 名で、学部ごとの内訳は表 1 に示す通りであった。健診後おおよそ 1 週間から 1 か月の間にフォローアップ面接を行っており、健診時の主訴や適応の状況を確認するとともに、相談ニーズが認められる学生へ継続面接を提案している。健診以降の支援状況を図 1 に示す。半数強がフォローアップ面接を利用し、そのうち約半数が継続的なカウンセリングへ移行している。

フォローアップ面接を利用しない学生の多くは、保健管理センターへ相談に訪れることなく、順調に卒業していることが推察される。一方で、フォローアップ面接や継続面接にならなかった学生で、その主訴や様子から適応の難しさが見立てられていた学生が、後に「気になる学生」として紹介される例がある（表 2）。入学期以降に生じたニーズに対し、自ら支援を求められるような健診での出会い方や広報、教育について、検討の余地があるだろう。

3. カウンセラー面接の効果

相談ニーズのある学生からは、健診時面接にて「引っ越してからちゃんと人と話したのが初めて。少しほっとした」といった、高まっていた不安緊張が和らいだという言葉は多く聞かれており、スムーズな学生生活の移行への一助となっていると考えられる。また、「心配事をどこに相談していいかわからなかったのが、声をかけてもらってよかった」「これまでもカウンセリングをしていたので、継続したいと思っていた」等の声も聞かれ、相談ニーズをもって入学してきた学生にとっては、安心と見通しを得る機会になっていることが推察される。

また、健診時にカウンセラー面接を利用した学生のうち、後に自主来談した学生が例年 10 名程度いる（表 2）。「これまで人に相談するのはよくないことだと思っていたけれど、健診の時に『いつでも来てください』と言われていたので」と来談した学生や、自らの相談だけではなく「聴いてもらってよかったので、友達を連れてきました」と心配な友人にカウンセリングを紹介し、一緒に相談に訪れる学生もいた。

4. まとめ

平成 29 年度の健診では、126 名の学生とのカウンセラー面接を行った。

健診時にメンタルヘルス不調と判断された学生の経過を調査したところ、入学年度ごとに、後に自主来談した学生、教職員から「気になる学生」として紹介された学生がそれぞれ 10～20 名程度いることが分かった。各学生の支援希求力や、困難に直面している友人学生への対応の仕方についての知識と行動力を育てるための仕組みを検討する余地があると考えられた。

学部	人数
総理	48
法文	25
教育	9
生物資源	29
人間科学	15
合計	126

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
後の自主来談学生	15	12	7	4
気になる学生	17	12	8	8

平成30年2月時点

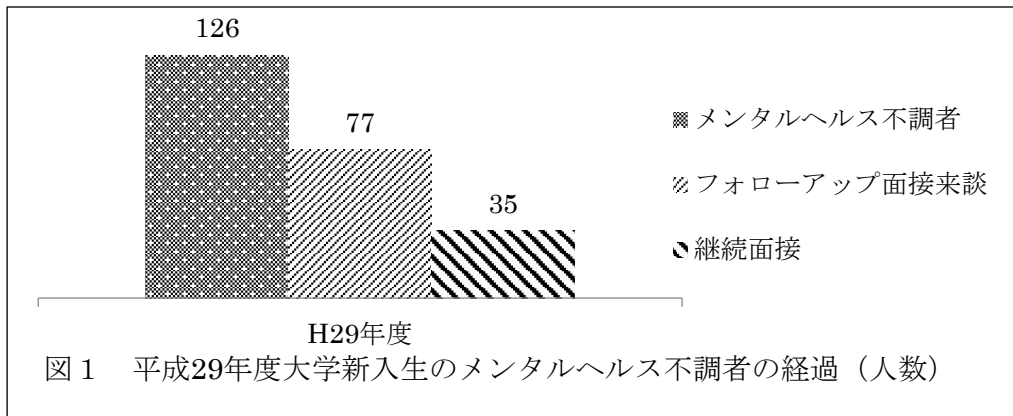


図1 平成29年度大学新入生のメンタルヘルス不調者の経過 (人数)

(文責：執行三佳)

○平成 29 年度新入生の精神的健康に関する調査報告

1. 目的：近年休退学学生の増加への対応が課題とされる中、適応に困難を感じる学生を早期に発見し、早期支援につなぐことは必緊の課題となっている。そこで本調査では、新入生の精神的健康状態を調査しその傾向を明らかにすることで、効果的な健康支援のあり方を検討することを目的とした。
2. 調査対象：島根大学松江キャンパスの平成 29 年度新入生 1024 名
3. 調査期間：2017 年 12 月から 2018 年 3 月
4. 調査方法：入学予定者に対し入学前に健康記録カードを自宅へ郵送し、自宅で記入後回収
5. 調査内容：いずれも、あてはまる項目の番号に○を記入することで回答を求めた。

① UPI 短縮版（表 1）

UPI 学生精神的健康調査（University Personality Inventory）は大学生のメンタルヘルスの実態を調査するため、全国大学保健管理協会が作成した 60 項目からなるスクリーニングテストであり、各大学で広く利用されてきた。

UPI 短縮版は脇田ら（2006）により回答時間の短縮を図りながらスクリーニングの精度を上げることを目的として開発された質問紙である。本調査では、脇田ら（2006）による UPI 短縮版を使用した。

② 修学に関連する追加項目（表 2）

従来より学生健康記録カードで尋ねていた調査項目のうち、健康診断後のカウンセラーによるフォローアップ面接で課題として取り上げられることの多いものを選択して回答を求めた。

6. 結果と考察

① 回答学生数

全入学生よりカードを回収した。記入のない場合、あてはまる項目がなかったためなのか、回答をしていない結果であるかは判断ができないため、記入がない場合は当てはまる項目がなかったものとして集計した（表 3）。

② UPI 短縮版および修学に関する追加項目の得点

UPI短縮版およびUPI短縮版の項目を抽出した合計得点の平均値について、他大学では5.22（中川ら，2006），2.47（中井ら，2007），6.85および5.88（春日ら，2010）といった数字が報告されており、それらと比較するといずれも非常に低い点数となっている。それぞれの対象学生は、中川ら（2006）では新入生に対し4月中の実施、中井ら（2007）では女子大学から共学の大学へ移行した新設の大学において全学生を対象として実施、春日ら（2010）では新キャンパスの開設時の在大学生を対象として実施した調査である（表4、図1）。

今回の調査では、入学前の新入生を対象としており、受験が終わって新しい生活の準備をする時期に回答している。得点の低さは、回答時期による差とも考えられる。

学部による平均点の差を調べるために一要因の分散分析を実施すると、 $F(4, 1026) = 3.12$ で、多重比較を行った結果、人間科学部が教育学部より 5%水準で有意に平均点が高かった。人間科学部には心理学や福祉等のコースがあり、入学生には精神的な緊張や不安、あるいは自分自身について敏感な学生が比較的多いため、点数が上昇した可能性が考えられる。

③ UPI「7. 死にたくなる」への回答

「7. 死にたくなる」の項目は、UPI (60項目版) から注意を要するとされる Key 項目である。平均得点は、全学部では 0.013 点 (13 名)、各学部はそれぞれ 0.005~0.037 点 (0~6 名) だった。他大学の調査によると、春日ら (2010) の 0.13 及び 0.14, 中井ら (2007) の 0.054 点, 中川ら (2006) の 0.08 というデータがあり、ここでも他大学より低い数値が確認された。

しかしながら本調査では入学前の回答であり、「死にたくなる」気持ちを抱えて不安と緊張を伴う新生活に入る学生が約 1.3% 存在することになる。そのような学生が存在することを念頭に、入学後早期に支援につながることや仲間や居場所を見いだせるような取り組みが随所で行われていることが重要と考えられる。

7. まとめ

- ① 平成 29 年度新入生の精神的健康について、UPI 短縮版の合計得点は先行研究と比較して低く、Key 項目である「死にたくなる」という項目も低い点数だった。
- ② しかし、人数は少なくともそのような気持ちを抱きながら環境の大きな変化を迎える学生は存在し、入学後早期の適応を支援することの必要性が確認された。

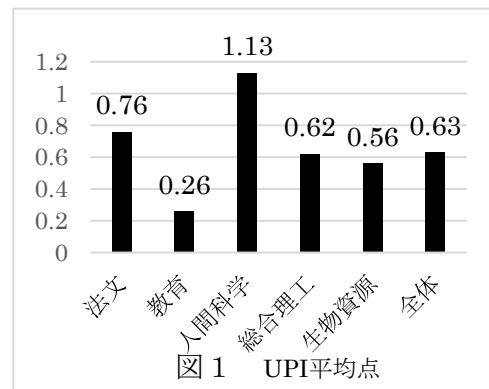
1 不平や不満が多い
2 自分が自分でない感じがする
3 悲観的になる
4 気が小さすぎる
5 いらいらしやすい
6 おこりっぽい
7 死にたくなる
8 何事も生き生きと感じられない
9 どもったり、声がふるえる
10 何事もためらいがちである
11 他人に悪くとられやすい
12 他人が信じられない
13 気をまわしすぎる
14 つきあいが嫌いである
15 ひげ目を感じる
16 とりこし苦勞をする
17 繰り返し確かめないと苦しい
18 つまらぬ考えがとれない
19 周囲の人が気になって困る
20 気持ちが傷つけられやすい

1 不登校
2 よく眠れない
3 進路、修学上のことで悩みがある
4 心身の状態や健康のことで悩みがある

	回答者数(人)		
	男	女	
法文学部	90	106	196
	67	68	
教育学部	23	59	82
	67	340	
人間科学部	108	67	204
	67	628	
総合理工学部	108	67	204
	67	367	
生物資源科学部	628	367	1024
	367		

	法文	教育	人間科学	総合理工	生物資源
UPI短縮版					
1 不平や不満が多い	0.041	0.015	0.061	0.024	0.029
2 自分が自分でない感じがする	0.015	0.008	0.037	0.005	0
3 悲観的になる	0.076	0.022	0.122	0.049	0.043
4 気が小さすぎる	0.036	0.008	0.049	0.051	0.033
5 いらいらしやすい	0.086	0.022	0.024	0.049	0.053
6 おこりっぽい	0.046	0.008	0.012	0.024	0.024
7 死にたくなる	0.031	0.015	0.037	0.005	0
8 何事も生き生きと感じられない	0	0.008	0	0.004	0
9 どもったり、声がふるえる	0.025	0.022	0	0.022	0.014
10 何事もためらいがちである	0.046	0.022	0.073	0.051	0.053
11 他人に悪くとられやすい	0.015	0.008	0.012	0.022	0.01
12 他人が信じられない	0.005	0.008	0.012	0.017	0.019
13 気をまわしすぎる	0.076	0.008	0.122	0.049	0.043
14 つきあいが嫌いである	0.02	0.015	0.037	0.042	0.029
15 ひげ目を感じる	0.031	0.015	0.024	0.024	0.033
16 とりこし苦勞をする	0.036	0.008	0.134	0.034	0.024
17 繰り返し確かめないと苦しい	0.046	0.008	0.085	0.044	0.033
18 つまらぬ考えがとれない	0.025	0.022	0.085	0.029	0.033
19 周囲の人が気になって困る	0.056	0.015	0.122	0.042	0.057
20 気持ちが傷つけられやすい	0.051	0.008	0.085	0.032	0.024
合計得点の平均値	0.761	0.262	1.135	0.62	0.554
合計得点の標準偏差	1.901	1.343	2.126	1.806	1.369
修学に関連する追加項目					
1 不登校	0.025	0	0.025	0.024	0.019
2 よく眠れない	0.02	0.008	0.012	0.022	0.024
3 進路、修学上のことで悩みがある	0.025	0.022	0.037	0.039	0.024
4 心身の状態や健康のことで悩みがある	0	0.008	0.024	0.01	0.01

	割合 (%)	人数 (人)	平均得点
法文	3.05	6	0.031
教育	1.49	2	0.015
人間科学	3.66	3	0.037
総合理工	0.49	2	0.005
生物資源	0	0	0
全体	1.26	13	0.013



<引用・参考文献>

- 1) 脇田貴文・小塩真司・願興寺礼子・桐山雅子 2006 University Personality Inventory短縮版の開発. 中部大学人文学部研究論集, 第17号, 123-128.
- 2) 春日由美, 吉中淳 2010 新キャンパス開設時における大学生の適応と精神的健康. 南九州大学研報40B: 1-10
- 3) 中川政俊・荒木乳根子・平啓子 2006 UPI (大学精神健康調査) とその後の心理的問題の発生および学業遂行との関連に関する研究. 田園調布学園大学紀要1, 51-67.
- 4) 中井大介・茅野理恵・佐野司 2007 UPI から見た大学生のメンタルヘルスの実態. 筑波学院大学紀要2, 159-173.
- 5) 中村恵子・丹羽美穂子・古沢洋子・長瀬江利・高橋睦・本多恭子・朝田修市・後藤鉦司2000 入学時UPIと4年後の留年・退学状況. CAMPUSHEALTH, 36, 87-92.

(文責：執行三佳)

○新入生サポートグループ「よりみち」報告

1. グループの目的

入学直後の学生は不安と期待で高揚した状態にあることが多い。不安の強い学生は学生生活への適応に困難を感じやすいし、一見積極的と見える学生の中には5月以降で気分の落ち込みや不適應感を感じる学生もいる。保健管理センターでは、大学生活へのスムーズな移行が困難で学内でも孤立感を強く感じ、入学後の早い段階から不登校傾向を呈する学生の支援にあたることも少なくない。このような学生へは、個別の細やかな支援だけではなく、同じように不安や難しさを感じている学生がいると気づき、学生同士のつながりが感じられる安全な場の提供が効果的であると考え、新入生および三年次編入の学生対象のサポートグループ活動を行った。

サポートグループ（以下 SG）とは、当事者が運営も行う自助グループ（セルフヘルプグループ＝SHG）に対し、専門家等の支援スタッフがメンバーの一員として参与するグループ活動であり、より安全性の高いものである。このような形態で実施するのは、個別のカウンセリングと保健管理センターでの支援を受けない学生生活の間に位置付け、カウンセリングの必要性を見立てることやカウンセリングと並行してより生活に近い形での支援を提供することを目的とするためである。よって、入学時健診時に適応への不安を訴えた学生には積極的に参加を呼び掛け、またカウンセリングと並行しての参加を提案した。

2. 活動内容

対象：新入生、3年次編入生、希望があれば他の学年の学生。

期間：平成29年4月～7月。水曜日の午後80分。

場所：保健管理センター 2F ミーティングルーム。

募集：入学時健診時に案内のチラシを配布し、参加者を募る。原則、前日までの申し込みとする。

プログラム：

毎回の構成＝簡単な自己紹介、活動、一言コーナー（感想）、アンケート記入

第1回（4月26日） 「自己紹介、コミュニケーションゲーム」（参加学生2名）

第2回（5月2日） 「テーマトーク」（4名）

第3回（5月24日） 「料理（レンジで簡単！一品料理）」（2名）

第4回（6月7日） 「リラックス de セルフメンテナンス、茶話会」（3名）

第5回（6月28日） 「コラージュで自己表現」（1名）

第6回（7月12日） 「料理（暑さに負けない！簡単ごはん）」（1名）

フォローアップ：

必要に応じて、個別のカウンセリングを並行して実施した。

3. 学生の感想より

- ・入学してから、人と話すことがなかったので良かった。
- ・普段合わない学部やサークルの人の話が聞けて面白かった。
- ・もっとたくさんの参加者があるといい。
- ・人数は少なめの方がはしやすいけど、同性が多いとよかった。

4. まとめ

友人を作るのが苦手、新しい環境に慣れるのに時間がかかることが心配という学生の参加が大半であったため、開始当初は緊張した様子もあったが、同じ講義を受けていたり、これまで似たような部活を経験していたことなどがわかると、和やかに情報交換をする場面も見られた。後半は、それぞれにサークルや学科の中に居場所を見つけていくことができた学生が多く、参加学生が減少したと考えられる。一方で、修学に関する悩みが新たに生じた学生は最後まで参加し、カウンセリングによるフォローもグループ終了後まで続けた。

入学期の高揚した雰囲気についていけないものの友人を求めている学生の中には、高い緊張と不安を抱えながら最初の半期を過ごしている人もいることが再確認でき、ある程度守られた場で静かな居場所となる交流の場を提供することに一定の意義があると考えられた。しかし、忙しい1回生の前期においてどのような形の支援が有効であるのかは引き続き検討を要する。

(文責：執行三佳)

4. その他の活動

① 学内外機関との連携

○島根大学障がい学生支援室

島根大学障がい学生支援室には、保健管理センターに相談のあった学生のうち、障がいに対する大学での合理的配慮を希望する学生や保護者を紹介している。また、障がい学生支援室に相談のあった学生のうち、心身の不調を伴う学生の紹介を受け、支援を行っている。

障がい学生支援室で実施されているランチミーティングの紹介および同行を随時行っている。

○島根県東部発達障がい者支援センター「ウィッシュ」

ウィッシュの担当カウンセラーとの就労相談を当センターカウンセラー同席で実施した。平成 29 年度の対象学生は 1 名で、計 2 回であった。

ウィッシュのカウンセラーとの会議を随時実施している。

○しまね性暴力被害者支援センターさひめ

性暴力被害に遭った学生に対し、しまね性暴力被害者支援センターさひめを紹介し、必要に応じて各種相談等における連携を図っている。

② 緊急支援

緊急の支援を要する事態として、学生の死亡が 1 件あった。当該学部・学科教員および学生支援課との連携のもと、関係学生および保護者への支援を行った。

Ⅲ 教職員の健康管理

教職員の健康管理に関しては、小康状態が続いている。

職員に関しては、部署によっては過重労働の傾向が認められる。正規職員は減らされているが、仕事量は減っておらず、弱い立場の若い職員に集中している可能性がある。これは、システム的な問題で個人の問題として片づけるべきではなく、労務管理として現実的有効な対応が必要と思われる。

教職員のセンター利用件数（再掲）（延件数）

メンタルヘルス	診察・健康相談	処置	その他	計
795	140	238	130	1303

（産業医 荒川長巳）

IV 広報・教育活動

1. 全学研修会の開催

○「学生対応のポイント」講演会

共催：保健管理センター・障がい学生支援室

開催日時：2017年12月6日 16:15～17:45

講師：大島啓利先生（広島修道大学学生相談室）

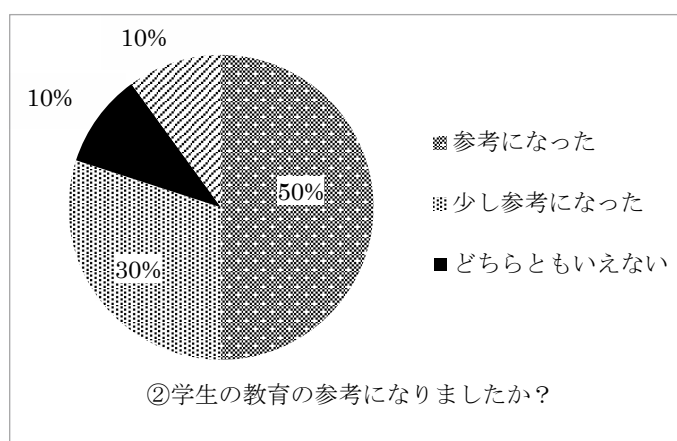
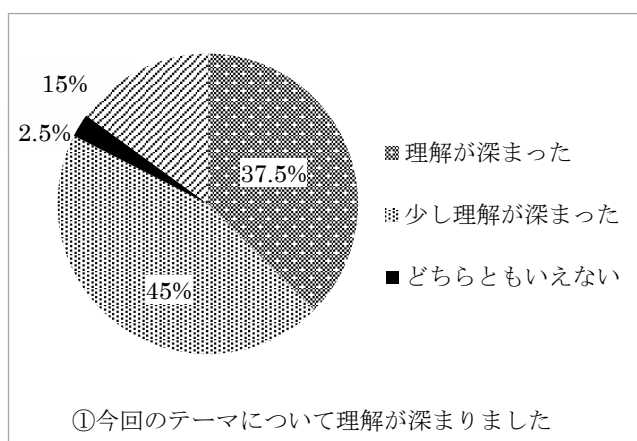
参加者：松江キャンパス41名、出雲キャンパス6名、学外9名 計56名

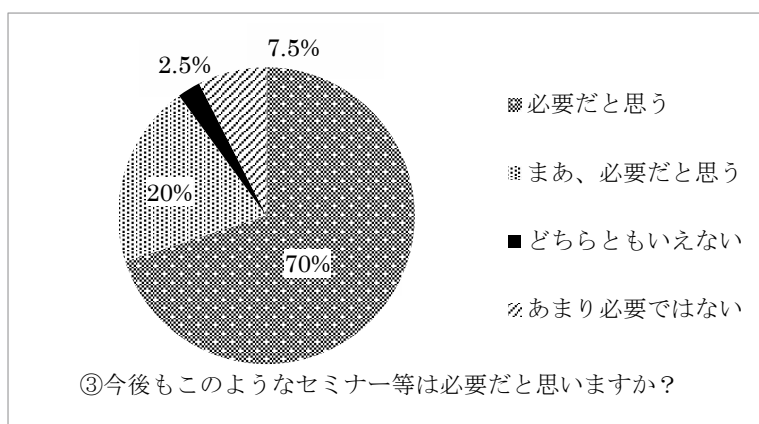
概要：学生対応の80%は「想定範囲内で物事が進み」「対処できている」が、問題となる20%をいかに0%に近づけるかが大切であるとして、対処する私たちの在り様について様々な視点から解説いただいた。

個人及び社会を、それぞれ自律性を持ち他からのコントロールが不可能なシステムとして捉えた上で、学生が「安全にハプニングを経験」し、それを「学びいうシステム変化に結びつける」ことが学生の成長を促進すると説明された。学生の成長に寄与する在り様として、学生の求める問題レベルに合わせた対応をすることや学生をコントロールしようとしめないこと、対応のさなかに感じたことは伝える方向で考えることなど、いくつもの重要な視点が挙げられた。そして、学生の成長・変化が生まれる場を作る技術はすでに私たちのもとにあり、知っているものであると指摘された。一人ひとりの教職員が少しずつ分散して持つ、上手な学生対応の技術や知識、姿勢を相互に学び合うことが大切であると投げ返していただいた。

参加者アンケート結果

- ① 今回のテーマについて理解が深まりましたか？
- ② 学生の教育の参考になりましたか？
- ③ 今後もこのようなセミナー等は必要だと思いますか？という問いに5件法で回答を求めた。





【講演会の感想】

- ・日々の仕事で思い当たる部分が多々あった。学生の気持ちや意図を感じ取り、学生の変容に向けてどう表現していくか考えながら、学生と関わりたい。
- ・「どうすれば良いか私たちは知っている」というところは印象的でした。知っているけどうまく引き出せない。それは教員、職員、学生それぞれ持っていることですので、それぞれの引き出しがうまく引き出せるよう工夫をした上で、共有できる部分を増やしていくことが大切と思いました。
- ・致命的にならない、安全な「ハプニング」を経験させるためのポイントが聞きたかった。
- ・学生対応にもいろいろな考え方があってということを再認識させてくれた。ただ、システムと言う考え方は今の時代にマッチしないのでは。
- ・学生への良好な対応が実現するためには、その学生の背景や自身を理解し、良い関係性を構築することがポイントを外さない学生対応ができるのではないかと思った。理論と実践をつなぐ良いお話でした。
- ・学生対応のポイントというタイトルで期待するものとは、重点の置き方が異なっていたと思った。→システム論や工学的発想。Management が中心だったと思うので、講演のタイトルは「対話を中心に据える組織への変革（の必要性）—より充実した学生支援を提供するために—」とでもした方がよかった。
- ・全教員が受講すべきテーマと強く思う。ビデオ視聴などを活用して、必修にすべきと思う。

【今後、取り上げてほしい研修テーマ】

- ・発達障がい学生について。
- ・アカハラ・パワハラ
- ・学生対応に関するテーマを今後も取り上げてほしいです。毎年いろいろな学生に出会いますが、できるだけいろいろな事例や対応を知り、想定できる範囲を広げられたらよいなと思いました。
- ・学習障がいのあるいはその可能性のある学生の対応について、知りたい。現場は困っています。

【その他】

- ・教職員で共有する場があればいいなと思いました。
- ・質問の時間で理解が進むので、質問・議論の場を増やしていただきたい。
- ・発達障がいの可能性のある学生への対応について、もう少し聞きたかったです。
- ・様々な難しい学生対応の例（失敗を成功それぞれ）が見える工夫もあればよいと感じます

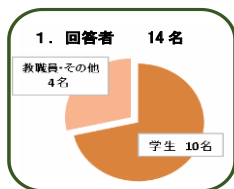
2. 教員・学生対象の研修会

○学生対象研修会

LGBT パネル展「多様な性、知っていますか？」in 島大の開催

1. 開催期間 平成 29 年 10 月 17 日～10 月 24 日
2. 会 場 松江キャンパス 大学会館 1F ホール、保健管理センター松江
出雲キャンパス 保健管理センター出雲
3. アンケート調査：期間中、パネル展観覧者を対象に LGBT に関する実態調査を実施した。

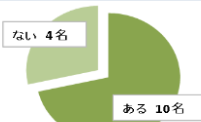
LGBT パネル展「多様な性知っていますか」in 島大 アンケート結果



小学校から大学までの教育機関で、性の多様性について学んだ経験のある人もいますが、本や雑誌、TV やインターネット等のメディアを通して知識を得ることが多かった。

2. 「性に多様性があることについて、これまで学んだことはありましたか。」

回答者の約 2/3 は、学んだ経験を持っているが、経験のない人も 1/3 いた。



Q. どこで（何で）学びましたか？（複数回答）

小学校から大学まで

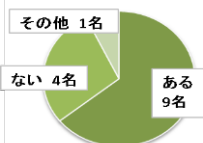
の教育機関で、性の多

様性について学んだ経験のある人もいるが、本や雑誌、TV やインターネット等のメディアを通して知識を得ることが多かった。



3. 「性的マイノリティの人に会ったことがありますか？」

回答者の約 2/3 は LGBT の人に会ったことがあるという回答だった。



自由記述より（抜粋）

- (LGBT の人に) 知らないうちに会ったことがあるかもしれない。
- 言い出せないだけでそうだった人がいてもおかしくないのだと思い驚いた。
- 何気ないゲートワークで、愛想笑いしている人がいるかもしれないという言葉が心に残りました。自分も加害者になってるかもしれないということが意識できました。
- “自分らしく” 生きるように伝えることは大切だと思います。
- LGBT でも全然いいと思う。
- 自分が多分 B なので、参考になりました。
- 中性・無性などの男女以外の性自認や性的指向・性自認が定まっていない・わからないクエスチョニングや、他者に恋愛感情を持たないアセクシャルの事も徐々に知られてほしいと思いました。
- こういう企画をもっとしてほしい。
- 多くの人に知ることから始めてほしい。
- LGBT に対する厳しい現状にも触れる側面があるとよかったです。



<お問い合わせ> 保健管理センター
執行 shijvo@soc.shimane-u.ac.jp

○学部との学生相談連携会議

各学部に保健管理センター松江のスタッフが出向き、FD研修会を開催した。

近年、大学生が加害者・被害者となる事件・事故が全国で多発しており、大学の対応に注目が集まると同時に、大学教職員の被害学生や事件・事故に関係した学生への支援に関する知識やスキルもますます求められるようになってきている。そこで、「学生にかかる事件・事故後の対応」をテーマとした研修会を行った。

実施日：7月19日 人間科学部、法文学部

7月26日 生物資源科学部、総合理工学部

9月13日 教育学部

研修会内容：

第一報を受けました
どのように対応しますか？

①情報の集約と共有
②事実確認と当事者のケア
③情報統制

当事者学生、情報提供学生と面談。
○**学生の行った対応、できたことをほめる。**
例) 教員へ知らせたこと
救急車を要請したこと
飲酒をしすぎないよう止めたこと など

○**情報の拡散をしないよう指導。**
その情報を知っている人を確認する。
SNSでの情報拡散を注意する。

第一報を受けました どのように対応しますか？

①情報の集約と共有
②事実確認と当事者のケア
③情報統制

①**学生支援課の総務・学生活動支援グループ、夜間は守衛室（→学生支援課）へ報告。学科長→学部長へ報告。**

②**立上関係学生と保健管理センターへ同行し、見立ておよび心理教育を行う。**
当事者学生と友人学生などに対し、
・学生の心身の状態を見立てる。
・学生の生活・就学・備忘への支援の必要性を見立てる。
・心理教育を行う。

③緊急対策会議にて、以下を中心に検討。
・保護者への連絡の仕方
・関係学生（研究室、部活やサークル）への伝え方
・今後の指導と支援の方向性

事件・事故後の学生支援における注意点

こころ
不安、怒り、自責感、無力感、情緒を感じにくい

からだ
だるい、眠れない、胃腸症状、頭痛

生活
欠席過多、成績の低下、引きこもりがちになる

対人関係
対人場面の回避、情緒不安定でぎくしゃくしてしまう

長期（時に年単位）にわたり、不調が続くことがある。

学内の連携先と役割

学生支援センター 直通：(0852)32-6330 内線：2507
総務・学生活動支援グループ 夜間は守衛室へ：(0852)32-6100 内線 2340

- ・教育・学生支援担当理事が、緊急対策会議の招集。
- ・情報統括の拠点となる。

保健管理センター 直通：(0852)32-6568 内線：2801

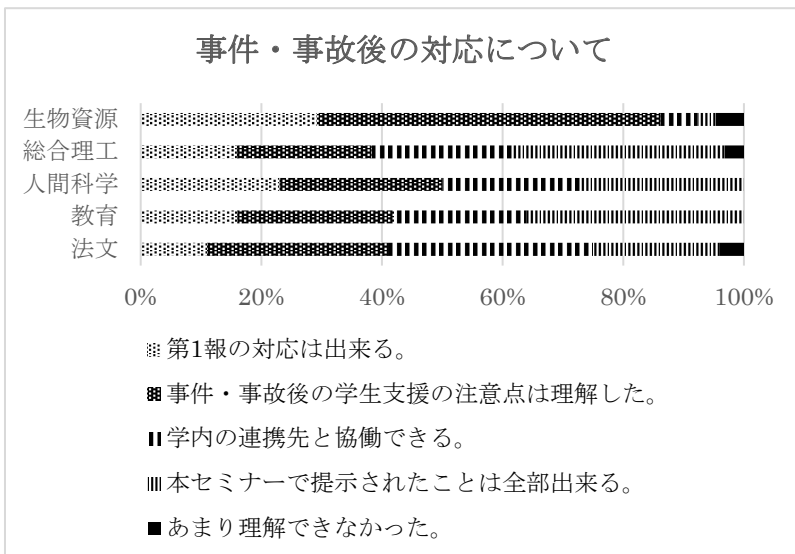
- ・関係学生の心身の状態を見立てる。
- ・「重大な出来事」に出会った時に起こりやすい心身の反応について、心理教育を行う。
- ・要支援学生、教職員への継続的な支援を行う。

対応チェックリスト
～緊急対策会議まで～

事件・事故の情報を得た教職員は、以下の対応をしておくことが大切です。

対象・関係部署	内容
学部・学科	<input type="checkbox"/> 学科長→学部長へ報告。
学生支援課	<input type="checkbox"/> 総務・学生活動支援グループへ報告。 直通：(0852)32-6330 内線：2507 夜間は守衛室へ報告。 (0852)32-6100 内線：2340
当事者学生 および 情報提供学生	<input type="checkbox"/> 学生の行った対応、できたことをほめる。 <input type="checkbox"/> 情報の拡散をしないよう指導。 SNSでの情報拡散に注意。

研修会後アンケート調査：



○数理コースでの FD 研修会

9月25日、数理コースの教員を対象とするFD研修会を開催した。テーマは、「不登校学生への対応」で、学生本人と連絡が取れず保護者へ電話をする場面と、不登校気味の学生との面談場面について、架空事例に基づくシナリオをペアで読み合わせ、対応について考えた。参加者同士での活発な意見交換を交え、具体的な場面について検討・共有することができた。

<意見・感想（抜粋）>

- ・質問したかったこともあり、もう少し長くても良かったような気がした。
- ・事前にどのような配慮が必要か、学生等から早い時点で連絡があれば教員もスムーズな対応が可能だと思う。
- ・予防のようなものが大事であり、どのような学生が増えてきており、どのような案件がocこりうるか、どこまでの配慮が妥当かなどが今後のFD研修で得られると良い。
- ・気になる学生に対し自分がやってきたことと概ね近い内容だったのでよかった。
- ・学生から大人として信頼してもらえるかどうか大事。それなりの距離感の近さも必要。学生との距離の取り方を画一的にもできないし、その辺の微妙なところが難しいところである。その難しさを引き受けるのを含めて教育なのかもしれませんが。
- ・ちょうど良いところを見計らって、保健管理センターを勧め、両方に相談に行ける状況を作るべきなのだと思う。これくらいの時期になったら勧めると良い、というような目安などあるか。

3. 保健管理センターのしおり発行（新入生、保護者、学内等に配布）

4. 島根大学保健管理センター松江のホームページによる情報提供

5. e-ラーニングの実施

「気になる学生」に対する e-ラーニング

平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日に全学教職員を対象に、「『気になる学生』への対応と修学支援について」の e-ラーニングを実施、最終的な実施率は 67.68%であった。

6. カルト対策

カルト集団の勧誘は以前は 4～5 月中心であったが、現在は 1 年中続いておりかつ、活動が見えにくくなっている。

啓発活動としては、以下のような活動をしている。

- ・合格通知に新入生および保護者あてにカルト集団の勧誘に気をつけるよう書いたチラシを同封した。
- ・入学式において保健管理センター所長がカルトに対する注意を促した。
- ・一般教養「健康スポーツ」の初回講義において、最新の勧誘手口とともにカルトの危険について講義をした。

A 大学における「気になる学生」調査の意義 ～10 年間のまとめ～

島根大学保健管理センター松江

河野美江 執行三佳 早瀬眞知子

小林亮輔 荒川長巳 小林沙世

長廻久美子 尾崎浩一

教育学生支援部学生支援課

寺脇玲子

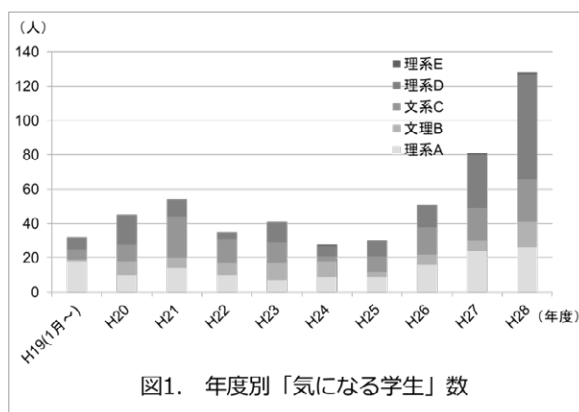
【はじめに】

A 大学では教員との連携を勧めるために、教員から「気になる学生」を紹介してもらい、カウンセラーが教員とともに学生の援助方法を考え支援する「気になる学生」調査を行っている。これは、相談のあった教員にカウンセラーが会い、詳しい状況を聞き、教員が学生の状況をどのように把握しているのか、教員と学生の関係はどうかを見立て、教員に対してコンサルテーションを行い、学生についての共通理解を図り対応とともに考える取り組みである^{1,2,3)}。教員との話し合いの結果、カウンセラーと面接が必要と考えられた学生に対しては、まず教員から面接を勧めてもらった。学生が教員からの電話やメールに応じない場合には、学生支援課より手紙で学生に連絡し、それでも連絡がつかない場合は、学生の安否確認のため教員もしくはカウンセラーが保護者に連絡した¹⁾。

平成19年度より10年間に紹介された「気になる学生」は526名であった(図1)。年度別にみると開始当初は増加したが、平成22年度より減少傾向にあった。これは単位が取れずに学部に残っていた学生たちが、カウンセラーが関わる

ことにより卒業もしくは退学したためと考えられた。平成25年度より第2期中期計画「学生の心身の健康に関する多様なニーズを受け止めることができる、実効性のある相談・支援体制を構築する」に則り、各学部で年1回保健管理センターとの「学生相談連携会議」を開始し、「気になる学生」調査について説明した。その結果、平成26年度から紹介数が再び増加した。平成27年、28年度は理系D学部において事件が相次ぎ、カウンセラーが指導教員のコンサルテーションや学内部署との連携を行ったこともあり、紹介件数が倍増している。

「気になる学生」の紹介時学年は4年生が最も多かった(図2)。性別は男性360名、女性166名で女性比率は



31.5%であった。「気になる学生」の女性比率を、平成 29 年度の A 大学における在学学生、大学院生 5330 名の女性比率である 37.3%と比較すると有意に低いことより ($p < .05$)、「気になる学生」は男子学生に多いことがわかった。

今回、「気になる学生」で卒業・修了した群と退学・除籍した群の特徴について検討し、本調査の意義を明らかにすることを目的とした。

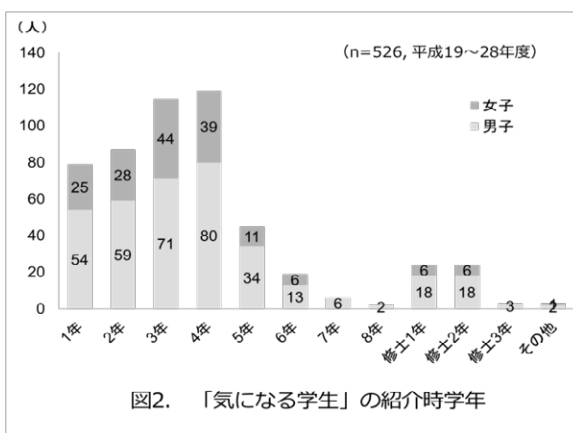
【対象と方法】

教職員から保健管理センターに紹介された「気になる学生」526 名のうち、卒業・修了した学生 (卒業・修了群) 226 名、退学・除籍した学生 (退学・除籍群) 155 名の計 381 名を対象とした。学生カルテ、面接記録より調査項目として性別、紹介時学年、カウンセラー面接の有無、紹介理由、来談のきっかけを抽出した。統計学的には js-STARversion 8.0.1j を用い、有意水準を 5%未満として、t 検定、 χ^2 検定を行った。

【結果】

卒業・修了群と退学・除籍群における各調査項目の平均値あるいは割合を表 1 に示す。卒業・修了群の女性比率は 34.5%、平均紹介時学年は 3.5 ± 1.4 年、退学・除籍群の女性比率は 30.3%、平均紹介時学年は 3.3 ± 1.5 年で、両群において性別、紹介時学年に差はなかった。カウンセラーとの面接率は卒業・修了群で 76.1%、退学・除籍群で 63.2%と、卒業・修了群において有意に高かった ($p < .01$)。

また、「研究室に配属される前の不登校」を「欠席過多」、「研究室配属後の



不登校」を「研究室に来ない」、「研究室に出ているが研究が出来ない、卒論が書けない」を「卒論が出来ない」と定義し、両群に占める紹介理由の割合について χ^2 検定を行った。「欠席過多」、「研究室に来ない」、「病気が心配」、「卒論ができない」、「発達障がい疑い」に有意差を認め、残差分析において退学・除籍群では卒業・修了群に比べ「欠席過多」が多く、卒業・修了群では退学・除籍群に比べ「研究室に来ない」、「病気が心配」、「卒論が出来ない」、「発達障がい疑い」が多かった (表 1)。

さらにカウンセラーと面接を行った 331 名中、卒業・修了した 213 名、退学・除籍した 118 名について来談のきっかけの差を検討した (表 2)。両群間で、

	卒業・修了群 (n=226)	退学・除籍群 (n=155)
女性比率 (%)	34.5	30.3
平均紹介時学年 (年)	3.5 ± 1.4	3.3 ± 1.5
カウンセラー面接率 (%)	76.1**	63.2**
紹介理由 (%)		
欠席過多	35.8**	78.1**
研究室に来ない	17.7**	5.2**
病気が心配	11.9*	5.2*
卒論が出来ない	7.1**	1.3**
発達障がい疑い	5.3*	1.3*
コミュニケーションがとれない	4.4	1.3

* $p < .05$ ** $p < .01$

「教員の紹介」、「教員と保護者が学生と一緒に来る」、「保護者が連れてくる」の割合に有意差を認め、残差分析において卒業・修了群では退学・除籍群に比べ「教員の紹介」が、退学・除籍群では卒業・修了群に比べ「教員と保護者と一緒」、「保護者が連れてくる」が多かった。

【考察】

わが国では、平成 24 年度において全大学生数の 2.65%にあたる約 8 万人の大学生が中途退学をしており、平成 19 年度の調査と比較して 0.24 ポイント増加している。退学理由として経済的理由が 27%と最も多いが、病気や学校不適應といった身体的・精神的要因が関連する退学の割合も 14%と高い割合を占めている⁴⁾。また、大学及び大学院卒業者の約 60%が正社員として就労しているのに対し、大学退学者の正社員就労率は約 1.7%であり、非正規雇用及び無職の割合が約 60%を占めるという報告⁵⁾もある。大学における退学予防の取り組みは、学生の健康管理上はもとより社会経済的問題、さらには昨今の厳しい大学経営においても、非常に重要な課題である。

以前私たちは、「自主来談によらない面接を継続する意義」について、面接が 3 回以上の面接継続群と 3 回未満の非継続群を比較し、面接継続群において有意に卒業・登校率が高いことより、「自主来談ではなくモチベーションが低い面接であっても、大学内の保健管理センターに来れば登校しやすくなるため、面接を勧め、継続させることは学生にとって大きな意義がある」と報告した⁶⁾。今回、「気になる学生」として紹介され、

表2. 来談のきっかけ (%)

	卒業・修了群 (n=213)	退学・除籍群 (n=118)
教員の紹介	61.0**	44.9**
教員が連れてくる	19.2	16.9
教員と保護者と一緒	5.6*	11.9*
保護者が連れてくる	2.3*	7.6*
職員の紹介	3.8	5.9
手紙で来談	2.8	6.8
その他	5.2	5.9

* p<.05 ** p<.01

1 回でもカウンセラーと面接を行った学生は、卒業・修了しやすかったことより、学生との面接は、退学を防ぐ大きな意義があると考えられた。

また、紹介理由において「欠席過多」は退学・除籍に関してハイリスクで、「研究室に来ない」、「病気が心配」、「卒論が出来ない」、「発達障がい疑い」は、卒業・修了に繋がりがやすかった。「研究室に来ない」、「卒論が出来ない」場合は、研究室配属に必要な単位は取れているため、指導教員に指導方法などをコンサルテーションすることで、「病気が心配」、「発達障がい疑い」は、病院や障がい学生支援室への紹介など他の支援機関と連携することで、卒業・修了に繋がったと考えられた。私達は、カウンセラーが「専門機関それぞれの役割を熟知し、履修や卒業論文に関しては教員に、生活面のサポートや進路については家族に、大学内での生活面の支援は保健管理センタースタッフに、コーディネーターすること」の重要性について報告してきた¹⁾。今回の結果からも、カウンセラーが学内のコーディネーターとして働くことの重要性が示唆された。

さらにカウンセラー面接に来た学生における来談のきっかけでは、卒業・修了群では「教員の紹介」が多く、退学・

除籍群では「教員と保護者と一緒」、「保護者が連れてくる」が多かった。教員から「保健管理センターに相談に行ってみれば？」と勧められ保健管理センターに来ることができるということは、教員と学生との関係が良好であり、学生の健康度も比較的高いと考えられる。一方、退学・除籍群においては、教員との関係が良好ではなかったり、学生が引きこもったりしているため、教員と保護者、もしくは保護者の関与が多いことがうかがわれた。平素より教員が学生に関心を持ち、「気になる」場合には早めに保健管理センターへ紹介してもらうことが肝要であり、教員への啓発が重要である。

今回、学生の社会心理的問題などは検討していないが、全国大学メンタルヘルス研究会ではメンタルヘルスのスクリーニングとして University Personality Inventory (UPI)⁷⁾ の実施を勧めている。UPI において、「食欲がない」、「自分の過去や家庭は不幸である」、「不眠がちである」、「死にたくなる」の key 項目に対し 1 つ以上「はい」と回答した学生は、学生生活満足度が低く⁸⁾、退学するリスクが高い⁹⁾ と報告されている。今後の課題として、「気になる学生」の経済状況や社会心理的要因、UPI 得点などを調査し、卒業・修了に繋がる要因や支援方法についての詳細な検討が必要と考えられた。

今後も「気になる学生」調査の取り組みを進め、指導教員や学部、保護者と連携した学生支援を行うことの重要性が示唆された。

【文献】

1. 河野美江 早瀬真知子 寺脇玲子：「気になる学生」調査をきっかけとした学生支援. 学生相談研究 34 (1), 23-35, 2013
2. 河野美江：「気になる学生」調査について. 平成 26 年度島根大学保健管理センター年報, 13-14, 2015
3. 河野美江：「気になる学生」調査について. 平成 27 年度島根大学保健管理センター年報 15-16, 2016
4. 文部科学省：学生の中途退学や休学などの状況について. http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/10/1352425.htm, 2014
5. 労働政策研究・研修機構：大学等中退者の就労と意識に関する研究. <http://www.jil.go.jp/institute/research/2015/138.html>, 2015
6. 河野美江 寺脇玲子 早瀬真知子 妹尾明子 深石優子 長廻久美子 小林亮輔 柏 紀子 荒川長巳 蘆田耕一：「気になる学生」調査報告 そのⅢ. 第 39 回中国・四国保健管理研究集会報告書, 89-93, 2009
7. 平山 皓・全国大学メンタルヘルス研究会：大学生のメンタルヘルス管理 UPI 利用の手引. 2-18, 創造出版, 2011
8. 武蔵由佳 箭本 佳己 品川笑子 河村茂雄：大学生における学校生活満足感と精神的健康との関連の検討. カウンセリング研究 45 (3), 165-174, 2012
9. 入江智也 丸岡里香：大学入学時におけるUPIのkey項目への該当および居住形態が退学リスクに及ぼす影響-生存時間分析を用いた検討-. 学生相談研究 38, 1-11, 2017

1. 河野美江 早瀬真知子 寺脇玲

出雲キャンパス

I 事業・業務

月	行 事	内 容
4 月	新入生オリエンテーション 新入生健康調査 新入生心理テスト 学生定期健康診断	保健管理センターの利用案内等 健康管理カードの提出 ACS 調査表の提出 胸部 X 線検査、内科、耳鼻咽喉科、眼科
5 月	学生定期健康診断 学生定期健康診断事後措置	胸部 X 線検査、内科、耳鼻咽喉科、眼科 再検査（尿・血圧）、受診勧奨
6 月	学生定期健康診断事後措置	再検査（尿・血圧）、受診勧奨
7 月	学生定期健康診断事後措置 学生の 4 種感染症及び B 型・C 型肝炎の抗体等に関する検査 健康教室（西医体対策） 学生の B 型肝炎ワクチン接種（第 3 回目）	再検査（尿・血圧）、受診勧奨 医学科 1 年・3 年次編入生、看護学科 1 年・3 年次編入生 テーピング講習会 医学科 2 年・4 年編入生、看護学科 2 年・4 年編入生
8 月	入学者選抜試験（看護学科 3 年次編入学）、オープンキャンパス 第 35 回島根学生相談研究会参加 第 47 回中国四国大学保健管理研究集会（高知市）	救護
9 月	入学者選抜試験（医学科学士入学第 1 次試験）	救護
10 月	外国人研究留学生・外国人研究者健康診断 入学者選抜試験（医学科学士入学第 2 次試験） オープンキャンパス	救護 救護
11 月	学生のインフルエンザワクチン接種	医学科 5・6 年、看護学科 3・4 年の希望者
12 月	入学者選抜試験（推薦入学） 外国人研究留学生・外国人研究者健康診断	救護
1 月	学生の B 型肝炎ワクチン接種（第 1 回目） 大学入試センター試験	医学科 1 年・3 年次編入生、看護学科 1 年・3 年次編入生 救護
2 月	学生の B 型肝炎ワクチン接種（第 2 回目） 入学者選抜試験（前期日程試験）	医学科 1 年・3 年次編入生、看護学科 1 年・3 年次編入生 救護
3 月	入学者選抜試験（後期日程試験） 第 36 回島根学生相談研究会参加 外国人研究留学生・外国人研究者健康診断	救護

【年間を通しての業務】

<ul style="list-style-type: none"> ○日常の健康相談（身体面及びこころの健康相談） ○応急処置 ○医療機関（専門医）への紹介 ○定例カウンセリング（和田臨床心理士 週 2 回） ○各種健康診断書の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○休養室の利用案内 ○救急箱の貸し出し ○検査機器の利用案内（身長体重計、血圧計、視力計等） ○センター出雲ミーティング 月 1 回 ○学生相談懇談会月 1 回（医学部学生相談室と共催）
--	---

II 保健管理業務

1. 学生定期健康診断 及び 事後措置

健康診断項目

項目 学年	質問紙に よる問診	身体計測 BMI	血圧測定	尿検査	内科診察	耳鼻咽喉 科健診	眼科健診	胸部 X 線 検査
医学科 1 年	○	○	○	○	○	○	○	○
医学科 2 年	○	○	○	○	○	—	—	—
医学科 3 年	○	○	○	○	○	—	—	○
医学科 4 年	○	○	○	○	○	—	—	—
医学科 5 年	○	○	○	○	○	—	—	○
医学科 6 年	○	○	○	○	○	○	○	○
看護学科 1 年	○	○	○	○	○	○	○	○
看護学科 2 年	○	○	○	○	○	—	—	—
看護学科 3 年	○	○	○	○	○	—	—	○
看護学科 4 年	○	○	○	○	○	○	○	○
医科学修士	○	○	○	○	○	該当者	該当者	○
看護学修士	○	○	○	○	○	該当者	該当者	○
博士課程	○	○	○	○	○	該当者	該当者	○

4 月～5 月 健康診断を実施する。(対象者は休学者を除く)

健診日程：内科・耳鼻咽喉科・眼科健診は計 3 日間、胸部 X 線検査は計 4 日間

健診場所：医学部附属病院（クリニカルスキルアップセンター、耳鼻咽喉科外来、眼科外来、放射線部）

5 月～6 月 健康診断の再検査（尿・血圧測定）を実施する。

6 月～7 月 総合判定の結果により、該当者（要医療・要精密検査）に対して受診勧奨を行う。

① 医学部学生定期健康診断の受診率及び健診結果の判定区分

○医学科

内科・耳鼻咽喉科・眼科健診受診率（対象者は休学者を除く）

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	対象者	58	82	65	63	65	63	396
	受診者	54	76	56	58	65	59	368
	受診率	93.1	92.7	86.2	92.1	100.0	93.7	92.9
女子	対象者	46	47	53	41	42	50	279
	受診者	46	44	52	39	42	50	273
	受診率	100.0	93.6	98.1	95.1	100.0	100.0	97.8
計	対象者	104	129	118	104	107	113	675
	受診者	100	120	108	97	107	109	641
	受診率	96.2	93.0	91.5	93.3	100.0	96.5	95.0

胸部 X 線検査受診率（対象者は休学者を除く）

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	対象者	58	/	65	/	65	63	251
	受診者	56		52		64	58	230
	受診率	96.6		80.0		98.5	92.1	91.6
女子	対象者	46		53		42	50	191
	受診者	46		51		40	47	184
	受診率	100.0		96.2		95.2	94.0	96.3
計	対象者	104	118	107	113	442		
	受診者	102	103	104	105	414		
	受診率	98.1	87.3	97.2	92.9	93.7		

健診結果の判定区分 人(%)

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
有所見者	要治療	0	0	0	0	0	0	0
	要精密検査	2	2	2	1	8	6	21
	要継続医療	2	1	2	5	3	3	16
	要経過観察	37	37	27	29	39	44	213
	措置を要せず	6	1	4	1	0	4	16
	計	47 (47.0)	41 (34.2)	35 (32.4)	36 (37.1)	50 (46.7)	57 (52.3)	266 (41.5)
異常なし		53 (53.0)	79 (65.8)	73 (67.6)	61 (62.9)	57 (53.3)	52 (47.7)	375 (58.5)
合計		100	120	108	97	107	109	641

胸部 X 線検査有所見者 1 件

○看護学科

内科・耳鼻咽喉科・眼科健診受診率（対象者は休学者を除く）

		1年	2年	3年	4年	計
男子	対象者	0	5	5	3	13
	受診者	0	4	5	3	12
	受診率	0.0	80.0	100.0	100.0	92.3
女子	対象者	61	57	58	53	229
	受診者	60	57	58	53	228
	受診率	98.4	100.0	100.0	100.0	99.6
計	対象者	61	62	63	56	242
	受診者	60	61	63	56	240
	受診率	98.4	98.4	100.0	100.0	99.2

胸部 X 線検査受診率（対象者は休学者を除く）

		1年	2年	3年	4年	計
男子	対象者	0		5	3	8
	受診者	0		5	3	8
	受診率	0.0		100.0	100.0	100.0
女子	対象者	61		58	53	172
	受診者	61		58	53	172
	受診率	100.0		100.0	100.0	100.0
計	対象者	61	63	56	180	
	受診者	61	63	56	180	
	受診率	100.0	100.0	100.0	100.0	

健診結果の判定区分 人(%)

		1年	2年	3年	4年	計
有所見者	要治療	0	0	0	1	1
	要精密検査	5	0	2	4	11
	要継続医療	1	0	3	1	5
	要経過観察	21	16	28	17	82
	措置を要せず	1	0	1	2	4
	計	28 (46.7)	16 (26.2)	34 (54.0)	25 (44.6)	103 (42.9)
異常なし		32 (53.3)	45 (73.8)	29 (46.0)	31 (55.4)	137 (57.1)
合計		60	61	63	56	240

胸部 X 線検査有所見者 1 件

② 大学院生定期健康診断の受診率及び健診結果の判定区分

○大学院生・昼間コース

受診率（対象者は休学者を除く）人（%）

	内科等	胸部 X 線直接撮影	血液検査
対象者（人）	41	41	41
受診者（人）	34	35	32
受診率（%）	82.9	85.4	78.0

判定区分 人（%）

	異常なし	有所見者						合計
		措置を 要せず	要経過観察	要継続医療	要精密検査	要治療	計	
内科等	9 (26.5)	0 (0)	22 (64.7)	2 (5.9)	1 (2.9)	0 (0)	25 (73.5)	34
胸部 X 線	35 (100.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	35
血液検査	20 (62.5)	1 (3.1)	3 (9.4)	0 (0)	8 (25.0)	0 (0)	12 (37.5)	32

HBs・HCV 検査関連

検査項目	受診者数（人）	陽性者数（人）	陽性者率（%）
HBs 抗原検査	28	0	0.0
HBs 抗体検査	28	19	67.9
HCV 抗体検査	28	1	3.6

○大学院生・昼夜開講履修コース

受診率（対象者は休学者を除く）人（%）

	内科等	胸部 X 線直接撮影	血液検査
対象者（人）	169	169	169
受診者（人）	13	14	18
受診率（%）	7.7	8.3	10.7

判定区分 人（%）

	異常なし	有所見者						合計
		措置を 要せず	要経過観察	要継続医療	要精密検査	要治療	計	
内科等	7 (53.8)	0 (0)	6 (46.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (46.2)	13
胸部 X 線	14 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14
血液検査	7 (38.9)	3 (16.7)	1 (5.6)	0 (0)	7 (38.9)	0 (0)	11 (61.1)	18

HBs・HCV 検査関連

検査項目	受診者数（人）	陽性者数（人）	陽性者率（%）
HBs 抗原検査	16	1	6.3
HBs 抗体検査	16	10	62.5
HCV 抗体検査	16	0	0.0

2. 医学部学生の感染症対策

本学における医学部の学生は、各種感染症のハイリスクグループと考えられる。病院内等で配慮すべき感染症であるインフルエンザ、麻疹、風疹、ムンプス、水痘、B型肝炎等については、ワクチン接種によって予防可能な感染症であるため、医療従事者をはじめ、実習生、研修生等はウイルス抗体価検査を行うとともに、率先してワクチン接種を実施することが推奨されている。

医学科の臨床実習および看護学科の臨地実習開始前に、4種感染症（麻疹、風疹、ムンプス、水痘・带状疱疹ヘルペス）の抗体検査、B型肝炎・C型肝炎抗体検査等を行い、順次ワクチン接種を実施していた。ただし、4種感染症の抗体検査については、医学科と看護学科で実施方法が異なっていたため、平成19年度より実施方法や検査機関について統一を図った。学生委員会、医学科長、看護学科長、学務課との連携を基本に、保健管理センターが医学科および看護学科の両学科における抗体検査について、計画から結果返しまでのマネジメントを統一的に担う事となった。保健管理センターにおいて採血を行い、抗体価測定については(財)ヘルスサイエンスセンター島根に依頼した。

計画および実施の手順は、次のとおりである。

- ① 学生に対して、検査の意義について周知徹底を図る。（保健管理センターのしおり、学生便覧）
- ② 学生は、入学手続き時に費用納入を行う。
- ③ 学生は、検査の当日に申込み書（同意書として）を提出する。
- ④ 保健管理センターにおいて採血し、(財)ヘルスサイエンスセンター島根へ検体を送る。
- ⑤ 保健管理センターが抗体検査の結果通知を受け取り、学生に対して抗体検査結果返しを行う。
- ⑥ 麻疹、風疹、ムンプス、水痘・带状疱疹の抗体価陰性および弱陽性者に対して予防接種を勧奨し、医療機関宛での紹介状を発行する。
- ⑦ B型肝炎ワクチン接種については、保健管理センターにおいて該当者一人に対して計3回接種を行う。

新入生に対しては、以下の検査を実施する。

検査項目 AST、ALT、 γ -GTP、HBs抗原・HBs抗体、HCV抗体
風疹、麻疹、ムンプス、水痘・带状疱疹の各抗体価

- 風疹、麻疹、ムンプス、水痘・带状疱疹の各抗体検査の結果、「陰性(-)」「弱陽性(±)」と判定された学生に、該当項目のワクチン接種を受けることを推奨する。
- HBs抗原(-)かつHBs抗体(-)と判定された学生に、B型肝炎ワクチン接種(計3回)を受けることを推奨する。

高学年に対しては、他にインフルエンザワクチン接種を実施している。各種ワクチン接種の間隔について無用な混乱を避けるため、結果返しの際に学生全員にワクチン接種時期の予定を説明した。

＜ 学生に配布する文書 ＞

感染症予防について

医学部では、医学科の臨床実習および看護学科の臨地実習に入る前に4種感染症（麻疹、風疹、ムンプス、水痘・帯状ヘルペス）の抗体検査とB型・C型肝炎の抗体等に関する血液検査を行います。

その結果、抗体を保有していない場合は、実習が開始するまでに該当のワクチン接種を実施する必要があります。なお、C型肝炎の予防ワクチンはありません。

- 検査を受ける対象学年は・・・医学科1年、 医学科3年次編入生
看護学科1年、看護学科3年次編入生 の皆さんです。

☆ 4種感染症は・・・成人になってからかかると、重症化する場合があります。

麻疹（はしか）

発熱、咳、くしゃみ、鼻水などの症状で始まり、3～4日後に発疹が出る。

風疹（三日はしか）

熱が出て同時に発疹が出る。熱は軽く発疹も3～4日で消失する。

ムンプス（流行性耳下腺炎・・・おたふくかぜ）

熱が出て、しばらくして両側の耳の下が痛くなり腫れてくる。

水痘（水ぼうそう）

熱が出て発疹が出る。間もなく水疱になり、さらに痂皮をつくって治る。

☆B型肝炎

B型肝炎ウイルスの感染によって起こる肝臓の病気です。

☆C型肝炎

C型肝炎ウイルスの感染によって起こる肝臓の病気です。

【 検査をすすめる理由 】

臨床実習および臨地実習では、様々な感染症の患者さんと直接あるいは間接的に接触する機会があります。自分自身の安全を守る（患者さんから感染しない）ことや

他の患者さんの安全を守る（学生が感染源にならない）ために、検査および該当のワクチン接種を行います。

- 各種抗体検査および該当のワクチン接種を受けていないと、臨床実習および臨地実習、病院見学、就職用の健康診断書等の発行ができませんので注意してください。

- 「保健管理センターのしおり」より抜粋-

①4 種感染症(麻疹、風疹、ムンプス、水痘・帯状ヘルペス)抗体検査及びB型肝炎・
C型肝炎抗体検査の受検者数と結果

医学科1年

項目	受検者数(人)	陰性・弱陽性者数(人)	陰性・弱陽性者率 (%)
風疹ウイルス IgG(EIA)	102	20	19.6
麻疹ウイルス IgG(EIA)	102	1	1.0
ムンプスウイルス IgG(EIA)	102	36	35.3
水痘・帯状ヘルペスウイルス IgG(EIA)	102	9	8.8
項目	受検者数(人)	陽性者数(人)	陽性者率(%)
HBs抗原	102	0	0
HBs抗体	102	5	4.9
HCV抗体	102	0	0

医学科3年次編入生

項目	受検者数(人)	陰性・弱陽性者数(人)	陰性・弱陽性者率 (%)
風疹ウイルス IgG(EIA)	9	2	22.2
麻疹ウイルス IgG(EIA)	9	1	11.1
ムンプスウイルス IgG(EIA)	9	3	33.3
水痘・帯状ヘルペスウイルス IgG(EIA)	9	1	11.1
項目	受検者数(人)	陽性者数(人)	陽性者率(%)
HBs抗原	9	0	0
HBs抗体	9	3	33.3
HCV抗体	9	0	0

看護学科1年と看護学科3年次編入生

項目	受検者数(人)	陰性・弱陽性者数(人)	陰性・弱陽性者率 (%)
風疹ウイルス IgG(EIA)	63	8	12.7
麻疹ウイルス IgG(EIA)	63	4	6.3
ムンプスウイルス IgG(EIA)	63	26	41.3
水痘・帯状ヘルペスウイルス IgG(EIA)	63	2	3.2
項目	受検者数(人)	陽性者数(人)	陽性者率(%)
HBs抗原	63	0	0
HBs抗体	63	2	3.2
HCV抗体	63	1(低力価)	1.6

②B型肝炎ワクチン接種

○医学科及び看護学科の新入生を対象に、肝機能検査及びB型・C型肝炎の抗体検査を実施した。

○HBs抗原(-)かつHBs抗体(-)の場合は、B型肝炎ワクチン接種を実施した。

(一人当たり計3回のワクチン接種)

B型肝炎ワクチン接種件数

医学科				看護学科				計
1年	2年	3年編入生	4年編入生	1年	2年	3年編入生	4年編入生	
194	94	10	10	116	59	4	1	488

③インフルエンザワクチン接種

平成11年度より、国家試験受験対策として医学科6年の希望者を対象にインフルエンザワクチン接種を開始し、現在は、臨床実習及び臨地実習の学年も対象としている。11月中にインフルエンザワクチン接種を実施した。

○医学科6年および看護学科4年希望者・・・国家試験受験の感染症予防対策

○医学科5年および看護学科3年希望者・・・臨床及び臨地実習の感染症予防対策

インフルエンザワクチン接種件数

医学科5年	医学科6年	看護学科3年	看護学科4年	計
51	84	60	55	250

3. 外国人研究留学生・外国人研究者健康診断

○検査項目別受診率

	内科診察	尿検査	胸部X線検査	血液検査
対象者数(人)	13	13	13	13
受診者数(人)	12	12	13	13
受診率(%)	92.3	92.3	100.0	100.0

HBs・HCV検査関係一覧

	HBs抗原	HBs抗体	HCV抗体
受検者数(人)	13	13	13
陽性者数(人)	1	10	0
陽性者率(%)	7.7	76.9	0

総合判定

	異常なし	要経過観察	要継続医療	要精密検査	要治療	計
人数	4	7	1	1	0	13
%	30.8	53.8	7.7	7.7	0	100.0

4. 保健管理センター出雲の利用状況

①月別・区別利用延べ件数

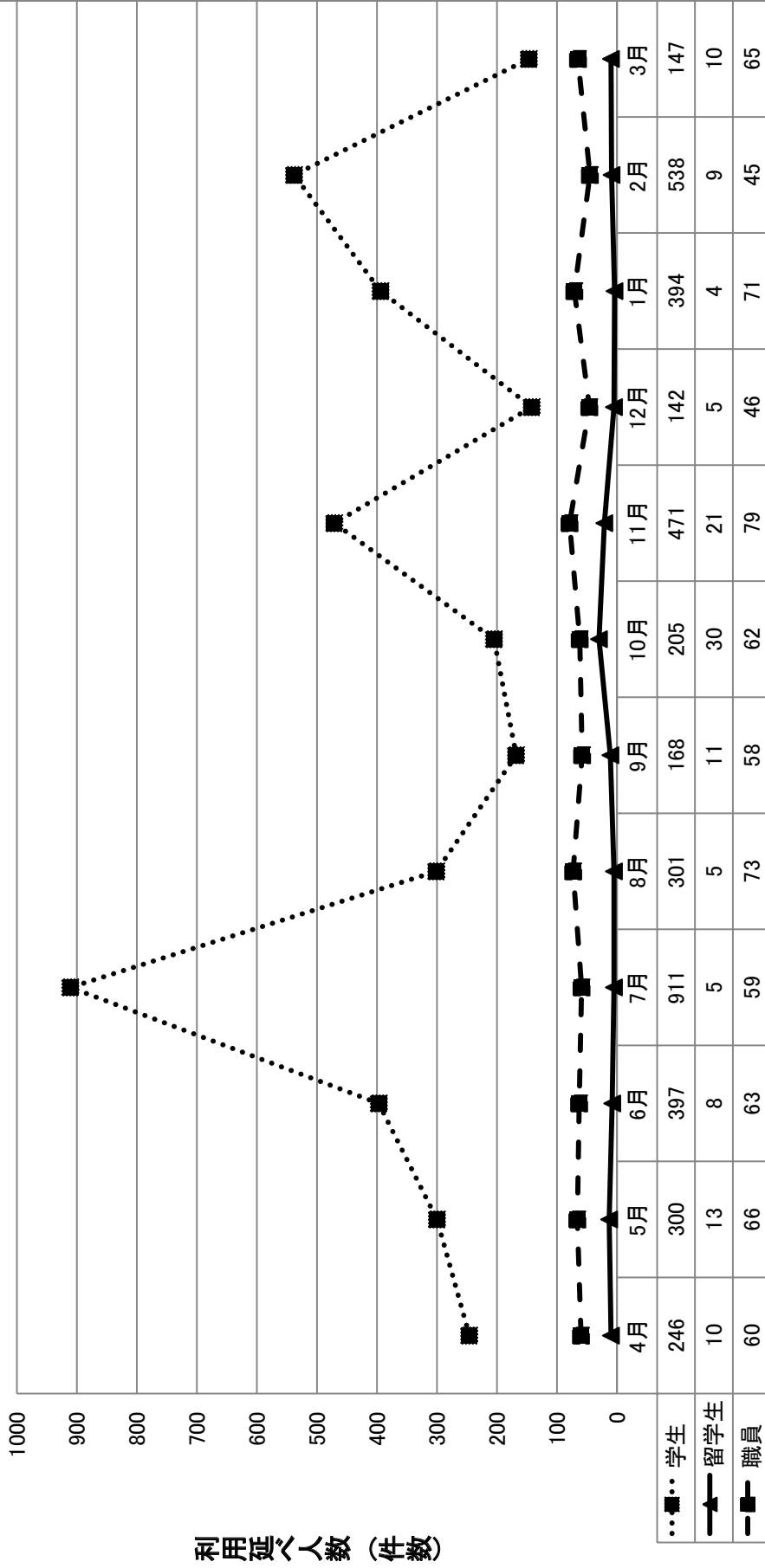
区分 項目/月別	学生												外国人留学生												職員																	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
健康診断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健診・再検査 健診・事後措置	2	30	127	54	14	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
身体測定	101	93	104	102	41	90	84	75	64	56	52	42	42	0	0	1	0	1	0	4	0	0	1	2	1	8	9	9	8	9	9	9	9	9	7	8	8	8	9			
視力測定	1	5	12	25	3	1	2	5	1	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
聴力検査	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
尿検査	0	3	4	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
血圧測定	4	10	8	8	5	4	16	13	2	5	3	3	0	2	1	1	0	0	6	2	0	2	2	1	8	9	9	8	9	9	9	9	9	7	8	8	8	8	8	10		
心電図検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
身体面の健康相談	32	62	49	44	29	18	30	44	21	62	37	33	33	3	5	3	2	2	3	5	7	1	1	2	3	0	1	0	2	2	1	1	0	2	1	1	0	2	3	2		
(就職用)	0	1	21	41	3	0	2	1	1	1	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(実習用)	0	0	0	62	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(免許申請)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	224	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(その他)	5	2	0	2	0	2	1	4	1	28	12	17	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
精神面の健康相談 及びカウンセリング	34	22	19	19	11	17	16	19	17	41	16	13	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	41	43	37	52	23	21	47	26	50	22	16						
休養室の利用	9	9	7	9	1	8	8	11	2	7	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
応急処置等	54	51	36	55	8	24	34	42	28	26	17	24	2	2	1	1	1	1	5	3	7	0	0	1	2	5	1	1	1	0	3	2	0	2	0	2	3	2				
専門医紹介	3	9	3	6	6	2	3	5	4	1	3	1	3	2	2	1	1	2	1	3	1	0	2	2	0	1	0	2	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
感染症抗体検査	0	0	0	174	174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
B型肝炎ワクチン接種	0	0	0	164	0	0	0	0	0	162	162	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
インフルエンザ ワクチン接種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	250	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4種ワクチン紹介状	0	0	0	93	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テーピング講習会	0	0	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急箱貸出し	1	3	7	2	4	0	4	1	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計(延べ人数)	246	300	397	911	301	168	205	471	142	394	538	147	10	13	8	5	5	11	30	21	5	4	9	10	60	66	63	59	73	58	62	79	46	71	45	65						

学生	4220	件	外国人留学生	131	件	職員	747	件					
月別 利用件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	316	379	468	975	379	237	297	571	193	469	592	222	5098

保健管理センター出雲の利用状況推移（利用延べ件数）

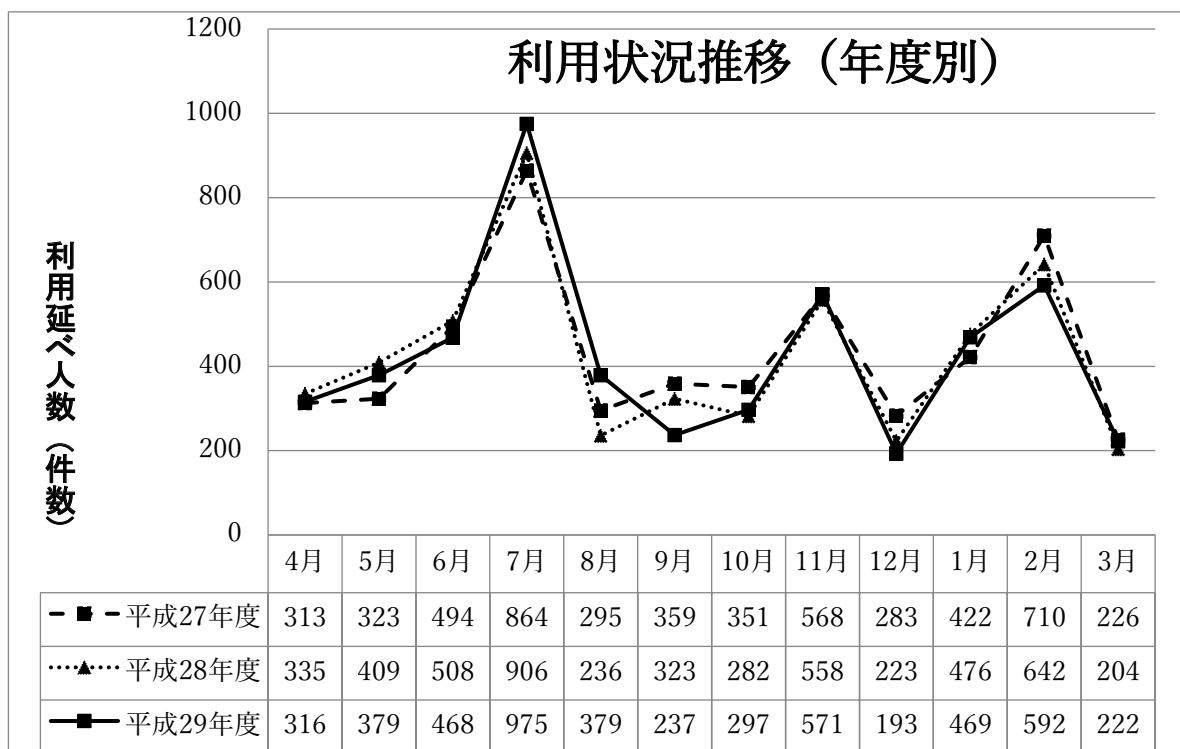
集計期間：平成29年4月～平成30年3月

利用状況推移



保健管理センター出雲の利用状況推移（平成 27、28、29 年度 3 ヶ年の比較）

月度	平成 27 年度			平成 28 年度			平成 29 年度		
	学生	留学生	職員	学生	留学生	職員	学生	留学生	職員
4 月	276	5	32	268	8	59	246	10	60
5 月	255	5	63	344	11	54	300	13	66
6 月	427	11	56	404	4	100	397	8	63
7 月	819	4	41	834	8	64	911	5	59
8 月	258	5	32	190	7	39	301	5	73
9 月	271	2	86	212	23	88	168	11	58
10 月	249	18	84	187	15	80	205	30	62
11 月	506	8	54	458	10	90	471	21	79
12 月	185	17	81	143	16	64	142	5	46
1 月	339	6	77	407	12	57	394	4	71
2 月	575	18	117	558	14	70	538	9	45
3 月	138	18	70	140	2	62	147	10	65
年度計	4,298	117	793	4,145	130	827	4,220	131	747



②健康診断書の発行件数（再掲）

- 感染症罹患に伴う出席停止の診断書（インフルエンザ等）
- 奨学金申請手続きのための健康診断書（医学科、看護学科、留学生）
- 病院見学のための健康診断書（医学科、看護学科）
- 保育所実習のための健康診断書（看護学科）
- 医科研修医・マッチングのための健康診断書（医学科）
- 看護師、保健師、養護教諭採用試験受験のための健康診断書（看護学科）
- 雇入時健康診断書（医学科、看護学科、職員）
- 就職活動のための健康診断書（大学院生・・・医科学修士）
- 医師免許申請用の診断書
- 保健師免許申請用の診断書
- 看護師免許申請用の診断書

発行延べ件数

	学生	外国人留学生	職員	計
平成 29 年度	443	3	2	448

③医療機関（専門医）紹介件数（再掲）

紹介延べ件数

	学生	外国人留学生	職員	計
平成 29 年度	46	20	8	74

5. こころの相談・カウンセリング

年間月別 利用延べ件数

所属		性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
医学部	医学科	男性	11	7	2	4	1	0	3	3	6	5	4	3	49	
		女性	4	5	3	3	2	6	1	3	2	13	6	2	50	
	看護学科	男性	0	1	0	0	0	0	0	3	1	0	1	0	0	6
		女性	13	9	13	12	8	10	8	10	10	9	11	5	8	116
小計			28	22	18	19	11	16	15	17	17	30	15	13	221	
	医学修士	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医学博士	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女性	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	看護学修士	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	看護学博士	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計			0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
研究生・科目等履修生	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
留学生	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
教職員	男性	25	22	16	16	7	8	6	26	16	36	15	5	198		
	女性	14	17	25	21	41	14	15	17	9	13	5	11	202		
保護者・家族	男性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2		
	女性	5	0	1	0	0	1	1	2	0	10	1	0	21		
その他	男性	2	2	2	0	4	1	0	4	1	0	1	0	17		
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2		
合計			75	65	62	56	63	40	37	66	43	91	39	29	666	

相談内容別 利用延べ件数

所属		性別	修学・ 進路	対人 関係	心身 健康面	学生 生活	家庭・ 家族	ハラス メント	コンサル テーション	その 他	計
医学部	医学科	男性	18	2	21	4	0	0	0	4	49
		女性	4	5	37	2	0	0	0	2	50
	看護学科	男性	0	0	6	0	0	0	0	0	6
		女性	6	3	102	2	3	0	0	0	116
小計			28	10	166	8	3	0	0	6	221
	医学修士	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医学博士	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女性	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	看護学修士	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	看護学博士	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計			0	0	2	0	0	0	0	0	2
研究生・科目等 履修生	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学生	男性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員	男性	0	16	79	0	0	0	0	103	0	198
	女性	1	3	80	0	0	0	0	118	0	202
保護者・家族	男性	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	女性	4	6	11	0	0	0	0	0	0	21
その他	男性	0	0	0	0	0	0	0	17	0	17
	女性	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
合計			33	36	340	8	3	0	240	6	666

来歴方法別 利用延べ件数

所属		性別	自発来談	紹介 (教員)	紹介 (事務部)	家族から 相談	友人から 相談	外部機関 から紹介	その他	計	
医学部	医学科	男性	28	6	11	1	0	0	3	49	
		女性	46	0	3	0	0	0	1	50	
	看護学科	男性	2	4	0	0	0	0	0	6	
		女性	26	89	1	0	0	0	0	116	
小計			102	99	15	1	0	0	4	221	
	医学修士	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医学博士	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女性	2	0	0	0	0	0	0	2	
	看護学修士	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	
	看護学博士	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計			2	0	0	0	0	0	0	2
	研究生・科目等 履修生	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	留学生	男性	0	0	1	0	0	0	0	0	1
女性		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
教職員	男性	66	0	27	0	0	0	0	105	198	
	女性	60	11	13	0	0	0	0	118	202	
保護者・家族	男性	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
	女性	0	0	0	21	0	0	0	0	21	
その他	男性	0	0	0	0	0	0	0	17	17	
	女性	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
合計			230	110	56	24	0	0	246	666	

手段別 利用延べ件数

所属		性別	面接	電話	メール・手紙	計
医学部	医学科	男性	49	0	0	49
		女性	48	2	0	50
	看護学科	男性	5	1	0	6
		女性	115	1	0	116
小計			217	4	0	221
	医学修士	男性	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0
	医学博士	男性	0	0	0	0
		女性	2	0	0	2
	看護学修士	男性	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0
	看護学博士	男性	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0
小計			2	0	0	2
研究生・科目等履修生		男性	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0
留学生		男性	1	0	0	1
		女性	0	0	0	0
教職員		男性	138	17	43	198
		女性	95	18	89	202
保護者・家族		男性	1	1	0	2
		女性	4	6	11	21
その他		男性	4	11	2	17
		女性	1	1	0	2
合計			463	58	145	666

対応内容別 利用延べ件数

所属		性別	経過観察 (継続) 中	他医療 機関紹介	カウンセラー 紹介	中断	終了	計	
医学部	医学科	男性	21	0	4	0	24	49	
		女性	27	1	4	0	18	50	
	看護学科	男性	5	1	0	0	0	6	
		女性	104	0	5	0	7	116	
小計			157	2	13	0	49	221	
	医学修士	男性	0	0	0	0	0	0	
		女性	0	0	0	0	0	0	
	医学博士	男性	0	0	0	0	0	0	
		女性	2	0	0	0	0	2	
	看護学修士	男性	0	0	0	0	0	0	
		女性	0	0	0	0	0	0	
	看護学博士	男性	0	0	0	0	0	0	
		女性	0	0	0	0	0	0	
	小計			2	0	0	0	0	2
	研究生・科目等 履修生	男性	0	0	0	0	0	0	0
女性		0	0	0	0	0	0	0	
留学生	男性	1	0	0	0	0	0	1	
	女性	0	0	0	0	0	0	0	
教職員	男性	177	0	0	0	0	21	198	
	女性	194	1	2	0	5	202		
保護者・家族	男性	2	0	0	0	0	2		
	女性	20	0	0	0	1	21		
その他	男性	16	0	0	0	1	17		
	女性	2	0	0	0	0	2		
合計			571	3	15	0	77	666	

6. 出雲キャンパスにおける心理相談

1) 心理相談の概略

学生たちの来談経路は、教員・職員からの紹介、家族や友人の勧め、チラシやHPの広報を見ての来談などである。相談内容としては、心身両面の悩み、不安・ストレス関連の症状、自分の性格やタイプ・傾向の問題、対人関係（友人、家族、教員、部活動、アルバイト、その他多岐に渡る）、将来の進路への悩み、学業や留年などに関する心配が主なものである。

以上のような傾向は、例年と大差ないものの、低学年については、自主来談数が増えてきている印象があり、学生相談やカウンセリングが、学生にとって、より身近なものになっていると感じる。また、カウンセラーの身近さだけでなく、学内の広報や相談体制の充実及び連携が進んだことも関係していると思われる。連携という点では、毎月1回開催の学生相談懇談会は、今年度も定例的に継続して行った。

2) 学生サイクルにおける相談の特徴

(1) 入学期

毎年のことながら、入学時の新しい環境に対する不安を抱えての相談が多かった。特に、授業についていけるか、テスト勉強が辛い、留年したらどうしよう、など学業への不安が高く、日常的で、やや強迫的な学業不安が高い学生が多い。このような傾向は、相談の場ではもちろんのこと、筆者が担当した人間心理の授業の中で、認知行動療法の演習を行った際に、ストレス因子として、勉強・試験をあげる者が圧倒的に多かったことから実感した（ちなみに、各自、コーピングを考える良い機会となった、という感想が多く寄せられた）。

(2) 中間期

主に中間期にある学生では、学業や生活の忙しさからくる、慢性的な睡眠不足や生活リズムの乱れ(夜型生活)のため、心身共に疲れを感じている学生が多く見受けられた。学生それぞれのタイプによって、社会的・社交的な場を一時的に回避したくなる傾向が高まったり、逆に、ストレス発散のための行動がエスカレートしたりと、安定した学生生活を維持することが難しいと感じている人が多い。

(3) 卒業期

卒業期の相談には、一つの傾向があり、自身のアイデンティティの問題が揺れやすく、自分の適性や卒業後の社会人、あるいは、専門職としての資質を再考して、思い悩み、苦戦する学生が多い。しかしながら、このような悩みは、自己探求的であり、学生相談特有の青年期における心理的支援という点で意味があり、心理的成長・成熟をもたらすものと考えられる。学生がこうした悩みに直面するのは、主に教員からの相談や紹介という来談ケースが多いことから考えて、卒業期の学生の心理面の相談には、大学教育における人間性教育や高度な専門職を目指す質の高い教育目標が関連していると考えられ、今年度は、卒業期学生のカウンセリングの役割として、こうした教育的要素を含んでいると感じるケースが多かった。

3) ACS (Adolescence Crisis Scale ; 青年期危機尺度) 検査の実施について

入学時の健康調査として平成 20 年度から ACS 検査を行っている。この検査は、学生のメンタルヘルス増進のために実施しており、高得点者の呼び出しとフィードバック (以下 FB) 希望者に対して、面接を行っている。今年度の実施対象者総数は 175 名で、回収率は 70.3% (医学科 66.1%・看護学科 77.8%) であったが、未提出者や無記入返却者への記入・提出を促進し、回収率を上げることが課題である。

FB を希望した学生は 9 名で、そのうち 2 名については、高得点群にも上がった学生であった。これらの学生には、既にある程度の心理的不調への自覚があり、FB を希望したものと考えられた。また、同じく FB 希望の学生のうち 3 名は、その後になって、自分自身の悩みや困り事で自主来談し、カウンセリングの対象となった。これらの学生には、例えば、高校時代から持ち越している心理的テーマ (意識的なものと無意識的なものを含む) があり、そのため、検査結果を聞きたいと、FB を希望するモチベーションにつながっているのではないかと思われた。さらに、入学時に ACS 検査を実施することで、大学生活における、自身のメンタルヘルスへの関心が高まり、早期発見や早期対応のきっかけになっていると考えられる。

高得点者群は 8 名であったが、4 名の学生が、呼び出し (ハガキによる通知) に応じてくれた。高得点群の学生については、「もしかしたら支援が必要になるかもしれない学生」という見立てをもって、予備軍として可能な範囲での注意を心がけておくようにしている (実際に来談することもあれば、何事もなく卒業する学生もいる)。

FB 希望者、高得点該当者ともに、全員を FB 面接につなげる難しさを感じるが、効果的な呼び出し法を引き続き検討していきたいと思っている。また、ACS 検査実施を相談の宣伝効果として考えてみると、後になって相談が必要になる学生にとっては、入学時の実施体験やその時のインフォメーションや提出先 (保健管理センターの窓口) が、学内の相談場所として、保健管理センターがあるという周知を図るのに効果があるという印象を持っている。この点からも、入学時に、チェック式の質問紙法 (心理検査) を実施することは有意義であると思う。

Ⅲ 教職員の健康管理

1. 教職員のセンター利用件数（再掲）

				延べ件数
メンタルヘルス	身体面の健康相談	応急処置	その他	計
419	16	22	290	747

2. 産業医業務

医学部事業場の産業医としての業務は以下のとおりである。

- (1) 春季と秋季に行われる職員一般・特殊定期健康診断の事後措置。
- (2) 毎月1回開催される医学部・附属病院合同安全衛生委員会への出席。
- (3) 毎月1度、医学部構内の職場巡視を行った。
- (4) ホルムアルデヒドなどの有害物質を使用する場所の作業環境測定の結果に対する意見提示。
- (5) 裁量労働制である教員の勤務時間の確認と、勤務時間が月に200時間以上である教員に対する事後措置（面接指導の勧奨、保健指導の勧奨、経過観察など）。
- (6) RIを使用する業務を行っている教職員の健康判定と精密検査の勧奨。
- (7) 精神的な疾患で病気休暇を取得した教職員または休職した教職員に対して、本人とその上司とともに3者面談を行い、復職支援プログラムを作成し、完全な復職に向けた支援を行った。
- (8) ストレスチェックを実施し、ストレス度が高い教職員の中から面接指導が必要な教職員を選定し、面接指導の勧奨を行った。本人が面接を希望すれば、面接して、職場に起因するストレス要因とそれ以外のストレス要因、身体的及び精神的な健康状態などに関して聴取し、事後措置を行った。さらに、医学部事業場全体の精神的健康度、基礎医学及び臨床医学の講座、看護学科、総務課、会計課、学務課、その他部局の集団それぞれの精神的健康度を算出する形で、組織分析を行った。

（産業医 江副智子）

IV 広報・啓発活動

1. 保健管理センターのしおり発行（新入生、保護者、学内等に配布する）

2. 島根大学保健管理センター出雲のホームページによる情報提供

3. 健康教育

○テーピング講習会

ねらい：本学学生の課外活動（体育系）時におけるスポーツ障害を予防するため、
テーピングの理論と実技について啓発・教育を行う。

平成5年度より継続して実施している。

時 期：毎年7月（西日本医学生体育大会参加等に備える）

会 場：出雲キャンパス

講 師：京都大学アメリカンフットボール部 トレーナーOB

米 田 勇 太 郎 氏

参加者数

(人)

出雲キャンパスの学生	松江キャンパスの学生	計
40	9	49

活動と体制

I：目標と計画

第3期中期目標

(平成28年4月1日～平成34年3月31日、関連する箇所のみ)

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1. 教育に関する目標

(3) 学生への支援に関する目標

①学生の修学、進路選択、及び学生生活等に関する支援・相談体制を強化する。

V その他業務運営に関する重要目標

2. 安全管理に関する目標

①学内構成員の健康保持とキャンパスの環境保持及び安全衛生管理を徹底し、教職員・学生の安全と健康を管理する。

第3期中期計画

(平成28年4月1日～平成34年3月31日、関連する箇所のみ)

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 教育に関する目標を達成するための措置

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

21 FD・SD研修等を通じて学生支援センター、保健管理センター及び各学部間の連携体制を強化するとともに、平成28年度に「障がい学生支援室」の設置などにより障がいのある学生を含めた多様な学生に対する相談体制を整備し、修学を支援する。

V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

2. 安全管理に関する目標を達成するための措置

76 学内構成員の健康保持に努めるため、大学が実施する健康診断の受診機会を、特定化学物質・有機溶剤を常時使用する学生(約120名)に広げるとともに、法令等に基づき適正な安全衛生活動を実施する。

平成29年度計画

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 教育に関する目標を達成するための措置

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

21②平成28年度に実施したFD・SD活動の結果並びに学生支援に関わる喫緊の課題を踏まえ、各学部と連携して「学生の事件・事故及びその予防に関する連携・連絡体制」に関するFD・SD研修会を実施し、全教職員の75%以上を参加させる。また、教職員が、最近増加しつつある対応困難な学生への適切な対応方法を習得し、修学を支援するために、具体的事例を取り入れたeラーニングを実施する。

③平成28年度に実施した成績不振学生、欠席過多学生の状況調査を基に、学部毎に留年、退学、休学等の「学生の身分移動」の現状と原因を把握し、その対応・支援策をまとめる。

④平成28年度に保健管理センターが中心となり構築した学内関係者(各学部、障がい学生支援室、学生支援センター、学務課)間の連絡体制を活かした保護者との連携による学生支援体制を強化する。

V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

2 安全管理に関する目標を達成するための措置

- 76 ① 大学が実施する健康診断に併せて、特定化学物質・有機溶剤を常時使用する学生（約 120 名）に対しても必要な健康診断を実施する。
- ② 法令等に基づきストレスチェックを適正に実施するとともに、集団分析をもとに職場環境の課題を把握し、高ストレスの要因排除及び荷重労働の発生を防ぐための注意喚起を行う。

II：学術研究活動

1. 研究会主催

○島根学生相談研究会

第35回島根学生相談研究会 平成29年8月8日（出雲キャンパス）
講演「発達障害を抱える本人、家族の支援について 一臨床経験から」
島根大学人間科学部人間科学科社会福祉コース 准教授
同医学部精神医学講座 准教授（兼任） 和氣 玲先生

第36回島根学生相談研究会 平成30年3月5日（松江キャンパス）
講演「25年を振り返って」
島根大学保健管理センター 教授 荒川 長巳先生

2. 学会・研究会参加

5月	第90回日本産業衛生学会学術総会（東京）	江副智子
	日本学生相談学会第35回大会（愛知）	河野美江 執行三佳
	島根県看護協会出雲支部保健師研修会（出雲）	米原満子
6月	第17回日本抗加齢医学会学術総会（東京）	江副智子
	第113回日本精神神経学会学術総会（名古屋）	江副智子
	第66回島根県産業看護部会研修会（松江）	米原満子 長廻久美子
7月	第14回日本うつ病学会・第17回日本認知療法学会合同学術総会（東京）	江副智子
8月	第47回中国四国大学保健管理研究集会（高知）	尾崎浩一 江副智子（座長） 荒川長巳 河野美江 執行三佳 米原満子 長廻久美子 小林沙世
	産業保健研修会（岡山）	米原満子
9月	第17回抗加齢医学の実際2018（東京）	江副智子
	第6回医学教育学会シンポジウム（東京）	河野美江
10月	第33回日本ストレス学会学術総会（大阪）	江副智子
	第24回日本時間生物学会学術総会（京都）	江副智子
11月	第27回日本臨床精神神経薬理学会（松江）	江副智子
	第6回日本ポジティブサイコロジイ医学会学術集会（横浜）	江副智子
	日本産業看護学会第6回学術集会（東京）	長廻久美子
	第55回全国大学保健管理研究集会（沖縄）	尾崎浩一 河野美江 長廻久美子
12月	第41回日本心身医学会 中国・四国地方会（出雲）	江副智子（座長）
	第39回全国大学メンタルヘルス学会（岐阜）	河野美江 執行三佳
2018年		
1月	全国学生相談研究会議（広島）	河野美江

- | | | |
|----|-----------------------|-----------|
| 3月 | 第37回日本社会精神医学会学術総会（京都） | 江副智子 |
| | 第88回日本衛生学会学術総会（東京） | 江副智子 |
| | 第42回中国四国学生相談研究会（香川） | 河野美江 執行三佳 |
| | 第12回島根県母性衛生学会（出雲） | 河野美江 |

3. 学会・研究会発表

- 5月 「保護者面談会へカウンセラーが参与する意義について」
 ○執行三佳、河野美江、早瀬眞知子
 日本学生相談学会第35回大会（愛知）
- 「危機の予防と危機への備え」
 ○河野美江、執行三佳
 日本学生相談学会第35回大会（愛知）ワークショップで話題提供
- 8月 「A大学における『気になる学生』調査の意義～10年間のまとめ～」
 ○河野美江、執行三佳、早瀬眞知子、小林亮輔、荒川長巳、長廻久美子、小林沙世、尾崎浩一
 第47回中国・四国大学保健管理研究集会（高知）
- 「国立大学法人島根大学とメンタルヘルス」
 ○荒川長巳
- 「Aiming at epidemiological and statistical suicide interventions in Semey by cooperation of some fields based on the research experience in Shimane Prefecture」
 ○Inoue, K, Miyaoka T, Chayzhunusova N, Ezoe, S et al.
 XIII International Research and Practice Conference （カザフスタン セメイ）
- 9月 「大学・研修病院における性暴力への対応 ～被害者保護から予防まで～」
 ○河野美江
 第6回医学教育学会シンポジウム（東京）
- 11月 「大学における性暴力への対応 ～被害者支援から予防まで～」
 ○河野美江
 平成29年度学生生活にかかるリスクの把握と対応に関するセミナー
 日本学生支援機構（東京）
- 「大学生の性被害に関するアンケート調査報告（第1報）」
 ○河野美江、執行三佳、武田美輪子、折橋洋介、大草亘孝、川島渉、布施泰子
 第55回全国大学保健管理研究集会（沖縄） 優秀演題賞受賞

- 12月 「大学生の性被害経験と精神健康度の関連について」
○河野美江、執行三佳、武田美輪子、折橋洋介、大草亘孝、川島渉、布施泰子
第39回全国大学メンタルヘルス学会（岐阜）

2018年

- 3月 「場面緘黙の女子大生との7年間」
○河野美江
第42回中国四国学生相談研究会議（香川）

4. 著書

1. 江副智子：「甲状腺疾患」 In：「はたらく」を支える！ 女性のメンタルヘルス（丸山 総一郎編）、南山堂、東京、2017年、pp. 361-368.
2. 江副智子：「青少年のメンタルヘルス—テクノストレスに関する予防医学」 In：ヘルスサービスリサーチ入門（田宮菜奈子・小林廉毅編）、東京大学出版会、東京、2017年、p. 216-224.

5. 学術論文

1. Iida T, Ito Y, Ishikawa H, Kanazashi M, Teradaira R, Tatsumi A, Ezoe S: Effects of psychological stress from a national license examination on the urine 8-Hydroxy-Deoxyguanosine levels in young female students, taking into account the menstrual cycle. *Open Journal of Preventive Medicine* 8: 21-31, 2018.
2. Iida T, Kunishige M, Ito Y, Tatsumi A, Nagaoka K, Ezoe S, Harada T: Association between the Profile of Mood States and autonomic nervous system activity during sleep in female students. *International Medical Journal* 25: 66, 2018.

6. 報告書

1. 執行三佳、河野美江、早瀬眞知子：保護者面談会へカウンセラーが参与する意義について。日本学生相談学会第35回大会発表論文集 75, 2017
2. 河野美江、執行三佳、早瀬眞知子、小林亮輔、荒川長巳、長廻久美子、小林沙世、尾崎浩一：A大学における「気になる学生」調査の意義～10年間のまとめ～。第47回中国・四国大学保健管理研究集会報告書、59-62, 2017 ISSN13489488
3. 河野美江、執行三佳、武田美輪子、折橋洋介、大草亘孝、川島渉、布施泰子：大学生の性被害に関するアンケート調査報告（第1報）。*CAMPUS HEALTH*55（1），443, 2017
4. 荒川長巳 国立大学法人島根大学とメンタルヘルス 第47回中国・四国大学保健管理研究集会報告書、74-77, 2017 ISSN13489488

7. 研究助成

平成29年4月～平成30年3月 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究（C）
「大学生の睡眠リズムと抑うつに及ぼす携帯電話依存の影響に関する時間生物学的研究（課題番号 15K01682、研究代表者 江副智子）」

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C)
「大学における性暴力被害者に対する支援モデルの確立に関する調査研究
(課題番号 16K01759、研究代表者 河野美江)

8. 他

1. 河野美江：性暴力被害者が安心して頼れるセーフティネットの担い手としての産婦人科医の役割. OG Scope2 (8)、10-13,2017
2. 河野美江：困ったらいつでも相談してね. 家族と健康 765 号、8p 12.1,2017

Ⅲ. 教育活動

江副智子

医学概論Ⅰ（医学部医学科・看護学科）
健康科学概論（医学部医学科）・健康スポーツ科学概論Ⅰ（医学部看護学科）
人間心理Ⅰ（医学部医学科・看護学科）
精神看護学援助論（医学部看護学科）
医学一般（法文学部社会福祉コース）
健康管理について（新任研修医・歯科研修医）

荒川長巳

健康・スポーツ（共通教養）
医学一般（法文学部社会福祉コース）
酒一杯の酒から学問を覗く人と職業

河野美江

健康・スポーツ（共通教養）
健康・スポーツ科学概論（共通教養）
医学一般（人間科学部社会福祉コース）
ジェンダー（共通教養）

和田葉子

人間心理Ⅰ（医学部医学科・看護学科）

Ⅳ. 社会貢献・講演

江副智子

日本サイコセラピー学会理事
日本サイコセラピー学会学会誌編集委員
日本ストレス学会評議員
日本時間生物学会評議員
全国大学保健管理協会評議員
一般財団法人 社会医学振興財団顧問

河野美江

全国大学メンタルヘルス学会理事
島根県母性衛生学会理事
島根県健康相談アドバイザー
島根県男女共同参画社会形成促進会議委員
島根県社会福祉審議会委員
公益財団法人島根県市町村振興協会評議員
島根県人権施策推進協議会委員

松江市医師会学校保健部委員

一般社団法人しまね性暴力被害者支援センター理事・事務局長

○講演

- ・松江市商工会議所女性研修会「女性がイキイキ活躍するために」
- ・島根県職員学習会「社会における性暴力への対応 ～被害者保護から予防まで～」
- ・益田養護学校教職員研修会「障害のある児童生徒の性」
性教育講演会 中学校 16 校、高校 3 校、大学 2 校、教員等専門職 2 回、NPO 等 10 回

執行三佳

島根リハビリテーション学院「臨床心理学」講義

島根県臨床心理士会・理事

早瀬眞智子

島根県教育委員会 教職員対象メンタルヘルス研修 講師

いのちの電話 評議員

松江市地域密着型サービス運営委員会委員

NPO 法人 おおだ子どもセンター 理事

小林亮輔

島根県臨床心理士会理事

島根リハビリテーション学院「心理学」講義

島根県立宍道高等学校「カウンセリング心理学」講義

島根県松江地区建設業協会 健康管理研修会 講師

雲南警察署スーパーアドバイザー

和田葉子

出雲市女性相談スーパーバイザー

2 前項の目的を達成するため、機構は、各学部・研究科等の学内組織と相互に連携を図るものとする。

(業務)

第3条 機構は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 次条の各センター等の統括に関する事。
- 二 大学教育の質保証・改善に関する事。
- 三 学生の学修・学生生活支援に関する事。
- 四 教育成果の分析・評価に関する事。
- 五 その他機構の目的を達成するために必要な業務

(センター等)

第4条 機構に、次の室及びセンターを置く。

- 一 教育推進センター
 - 二 アドミッションセンター
 - 三 キャリアセンター
 - 四 保健管理センター
 - 五 学生支援センター
 - 六 障がい学生支援室
- 2 各センター等に関し必要な事項は、別に定める。

(組織)

第5条 機構に、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 機構長
- 二 専任教員
- 三 その他必要な職員

(機構長)

第6条 機構長は、学長が指名する理事をもって充てる。

2 機構長は、機構の業務を総括する。

(専任教員)

第7条 専任教員は、第4条第1項各号のセンター等のいずれかを担当させる。

(管理委員会)

第8条 機構の管理及び運営に関する事項を審議するため、島根大学教育・学生支援機構管理委員会（以下「管理委員会」という。）を置く。

2 管理委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第9条 機構の事務は、関係各課の協力を得て教育・学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、機構に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附則（平成27年3月25日一部改正）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附則（平成28年3月15日一部改正）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。ただし、この規則による改正後の島根大学

教育・学生支援機構規則（平成25年島大規則第15号）第7条第2項の規定は平成27年10月1日から適用する。

附則（平成28年6月24日一部改正）

この規則は、平成28年7月1日から施行する。

附則（平成29年3月21日一部改正）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附則（平成30年3月20日一部改正）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

VI. 沿革

1. 旧島根医科大学保健管理センター沿革

昭和 50 年 10 月 1 日	島根医科大学開学
昭和 52 年 4 月 1 日	保健管理室業務開始
平成 3 年 4 月 12 日	保健管理センター開設（保健管理室を廃止）
〃	初代所長 恒松徳五郎(内科学講座第三) 教授 就任（併任）
平成 3 年 7 月 1 日	保健師 米原満子 着任
平成 4 年 3 月 16 日	講師 野原隆彦（第一外科より） 着任
平成 4 年 4 月 1 日	保健管理センター開所
平成 5 年 4 月 1 日	2代所長 加藤 讓（内科学講座第一） 教授 就任（併任）
平成 7 年 4 月 1 日	3代所長 福本四郎（内科学講座第二） 教授 就任（併任）
平成 8 年 9 月 16 日	4代所長 小林祥泰（内科学講座第三） 教授 就任（併任）
平成 10 年 9 月 16 日	5代所長 高島利一（内科学講座第四） 教授 就任（併任）
平成 12 年 9 月 16 日	6代所長 木下芳一（内科学講座第二） 教授 就任（併任）
平成 14 年 9 月 16 日	7代所長 加藤 讓（内科学講座第一） 教授 就任（併任）
平成 15 年 10 月 1 日	旧島根大学と島根医科大学が統合

2. 島根大学保健管理センター沿革

昭和 41 年	開学以来設置されていた学生健康相談所に代わり、昭和 41 年 6 月国立学校設置法施行規則第 29 条の 2 の規定に基づき学生の健康管理に関する専門的業務を行う厚生施設として、全国で 4 大学（東大、京大、長崎大、島根大）に設置された。
	初代所長（併） 福井一明助教授（教育学部） 就任
	井上照雄助教授（精神科） 着任
	看護師 徳永末子 着任 ～昭和 53 年 3 月
	非常勤講師 村江通之（衛生学）
	非常勤医師 石倉 幌（内科） ～昭和 60 年 3 月
	高橋富士郎（内科）
	青戸陽一（歯科） ～昭和 55 年 3 月
	茂木五郎（耳鼻科）
昭和 42 年 4 月	所長 井上照雄助教授 就任
	非常勤医師 西村 充（耳鼻科） ～昭和 55 年 3 月
昭和 47 年 12 月	本部管理棟へ移転
昭和 51 年 4 月	所長（併） 小滝信夫教授（教育学部） 就任 ～昭和 52 年 3 月
	助教授 井上照雄 教授に昇任
	非常勤医師 中島隆司（整形外科）
昭和 52 年 4 月	所長（併） 稲波正充教授（教育学部） 就任 ～昭和 57 年 3 月
昭和 53 年 4 月	看護師 三崎キクノ 着任 ～昭和 58 年 3 月

	臨床検査技師	柏（永海）紀子	着任	～平成 28 年 3 月
昭和 55 年	非常勤医師	青戸泰吉（歯科）		～平成 12 年 3 月
		永松 力（内科）		
昭和 56 年	非常勤カウンセラー	落合 潮	着任	～平成 5 年 3 月
	非常勤カウンセラー	大西俊江	講師（教育学部）着任	
昭和 58 年 4 月	所長	井上照雄	教授（精神科）就任	～平成 5 年 3 月
	講師	藤永佳代子（小児科）	着任	～昭和 60 年 12 月
	看護師	坪倉（清水）千歳	着任	
昭和 60 年 4 月	非常勤医師	池田 博（内科）		
昭和 61 年 1 月	講師	谷本浩一（消化器内科）	着任	～昭和 61 年 12 月
昭和 61 年 2 月	保健管理センター現在地に移転			
昭和 61 年 4 月	講師	船井哲夫（精神科）	着任	
平成 4 年 4 月	所長	喜多村 望	教授（教育学部）就任	～平成 7 年 3 月
	講師	船井哲夫	助教授に昇任	～平成 6 年 3 月
平成 5 年 4 月	助教授	荒川長巳（精神科）	着任	
	非常勤カウンセラー	斉藤 涉	着任	～平成 6 年 3 月
平成 6 年 4 月	助手	山本大介（精神科）	着任	
	非常勤カウンセラー	津森葉子	着任	～平成 9 年 3 月
平成 8 年 4 月	所長（併）	猪野郁子	教授（教育学部）就任	
平成 9 年 4 月	非常勤カウンセラー	足立富美子	着任	～平成 17 年 3 月
平成 14 年 4 月	非常勤カウンセラー	早瀬真知子	着任	
平成 15 年 4 月	助教授	荒川長巳	教授に昇任	～平成 30 年 3 月
平成 15 年 9 月	講師	山本大介	助教授に昇任	～平成 19 年 4 月

平成 15 年 10 月 旧島根大学・島根医科大学 統合

	所長（併）	猪野郁子	教授（教育学部）就任	～平成 17 年 3 月
	副所長（併）	小林祥泰	教授（医学部）就任	～平成 16 年 3 月
	教授	荒川長巳（精神科）		
	助教授	山本大介（精神科）		
	講師	野原隆彦（外科）		
	看護師	坪倉千歳		～平成 21 年 3 月
	保健師	米原満子		
	臨床検査技師	柏 紀子		～平成 28 年 3 月
	非常勤医師	池田 博（内科）		～平成 17 年 3 月
	非常勤カウンセラー	大西俊江	名誉教授	～平成 17 年 3 月
	非常勤カウンセラー	足立富美子		～平成 17 年 3 月
	非常勤カウンセラー	和田葉子		

平成 16 年 4 月 国立大学法人 島根大学となる

平成 17 年 4 月	所長（併）	蘆田耕一	教授（法文学部）就任	～平成 23 年 3 月
	副所長（併）	杉本利嗣	教授（医学部）就任	～平成 21 年 3 月
	特任講師	早瀬真知子	着任	～平成 28 年 3 月
	非常勤医師	坂之上 一史（内科医師）		～平成 28 年 3 月
	講師	野原隆彦	助教授に昇任	

平成 19 年 4 月 助教授 野原隆彦 教授に昇任
 平成 20 年 1 月 講師 河野美江 (産婦人科) 着任
 平成 21 年 4 月 副所長 (兼) 野原隆彦 教授 就任 ~平成 22 年 3 月
 保健師 長廻久美子 着任
 平成 21 年 5 月 嘱託講師 (カウンセラー) 小林亮輔 着任
 平成 22 年 4 月 教授 江副智子 (予防医学) 着任
 副所長 (兼) 江副智子 教授 就任
 平成 22 年 4 月 講師 河野美江 准教授に昇任
 平成 23 年 4 月 所長 (兼) 竹永三男 教授 (法文学部) 就任 ~平成 26 年 9 月
 平成 23 年 7 月 嘱託講師 (カウンセラー) 執行三佳 着任
平成 25 年 4 月 島根大学教育・学生支援機構 保健管理センターとなる
 平成 26 年 10 月 センター長 (兼) 谷口隆雄教授 (総合理工学研究科) 就任 ~平成 27 年 3 月
 平成 27 年 3 月 センター長 (兼) 尾崎浩一教授 (生物資源科学部) 就任
 平成 28 年 4 月 保健師 小林沙世 着任
 特任講師 執行三佳 着任
 嘱託講師 (カウンセラー) 早瀬 眞知子 着任

島根大学保健管理センター年報

[平成 29 年度]

平成 31 年 1 月発行

島根大学保健管理センター

〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

TEL 0852-32-6568